

G.W.合宿 1996
新人合宿 報告書



信州大学 山岳会
S.A.C.

～ '94. ギャジカン峰初登頂報告書を記念して
 として、 '96 ラトナチュリ峰初登頂を祈って

目 次 ページ

G.W合宿	行動記録	3~4
	気象記録	4~13
	会計報告、反省と感想	14
	エッセンからの反省	15
	装備からの反省	15
	個人の反省・感想	16~19
	新人合宿	巻頭言
	行動記録	20~24
	会計と渉外	25
	気象記録	26~29
	医療の反省	30
	装備の反省	30
	エッセンの反省と感想	31
	個人の反省と感想	32~42
	作文	43~49
	雑入連載小説	50



ナニゴト山に登るんた？

ロリー、只喚子を獲りに
行くためさ！

Golden Week 合宿

Golden Week 合宿を終えて

山内 哲文

今回もまた、あこがれの剣岳、早月尾根に行くことができなかった。本峰を目前にしながらいも、涙をのんで歩いたあの別山乗越へのりを忘れることはできないだろう。己の力のなさを感じられた時であった。

我々の力量は、「体力、歩行技術、ザイル操作、気象判断、山域における知識」等、あらゆる面において未熟であった。しかし今回の合宿で自分の力を知る事ができ、新しい技術も身につける事ができたのも事実だ。また、G.Wの剣周辺の楽しさの可能性（山スキー、源次郎、ハル峰、等）も広げることができた。いつか力をつけたらもう一度剣へ「I'll be back!!」!!

行動記録

○五月連休合宿 4月27日～5月1日 記録:長澤

4月27日・黒部平○9:10 - 雷電峰○14:50 -

雄山直下に Tent Site 1◎地風吹 16:00

28日・T.S 1◎7:07 - 雄山○7:17 -

大井通過○7:40 - 別山◎9:07 ~

「搬送」の練習をしながら下る ~ T.S 2○

(剣沢小屋付近) 11:40

東側の斜面で雪訓 12:30 ~ 15:00

29日・T.S 2◎6:35 ~ 8:00まで直上・降

トウバスの練習◎、12:00までスタカット○ -

14:15までコンテ(別山入) - T.S 2◎14:30

- テントを移動◎15:30 周りに雪壁をつくら

T.S 3◎

30日・T.S 3◎6:35 - 前剣◎7:30 /

8:00 - T.S 3◎9:15

「昼から悪天」と予想したので前剣ヒートのみ

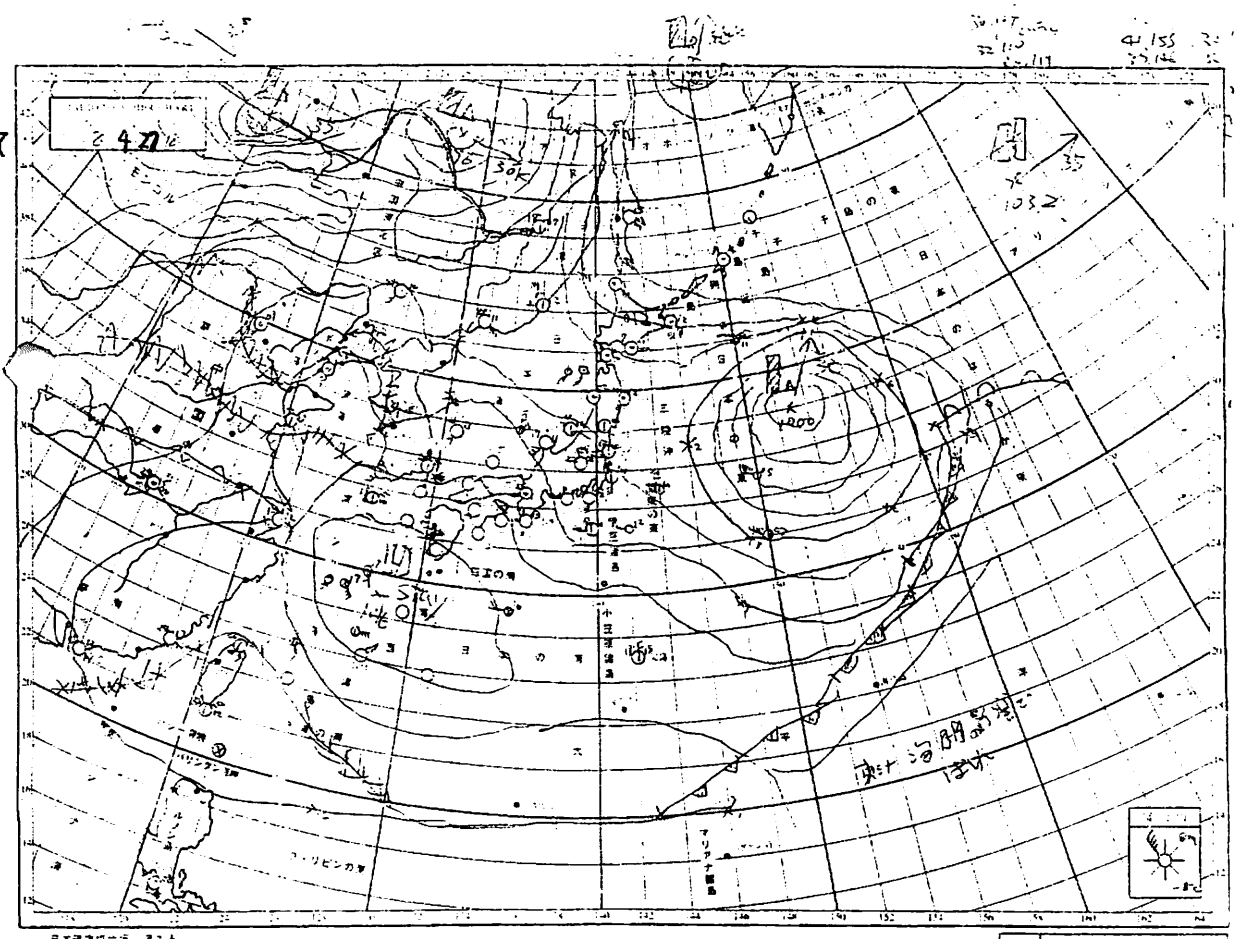
帰天後、「人工呼吸」の練習

5月1日 T.S3 6:30 - 別山乗越 ●!
 7:10 - 雷鳥平 ⊙ 7:45 - 室堂 ⊙ 8:40 /
 9:40 = 大觀望 10:10 ⊙ = 黒部平 ⊙
 10:25 = 黒部湖 10:20 = 黒部ダム 10:35
 = 扇沢 ⊙ 10:50 ~ 松本

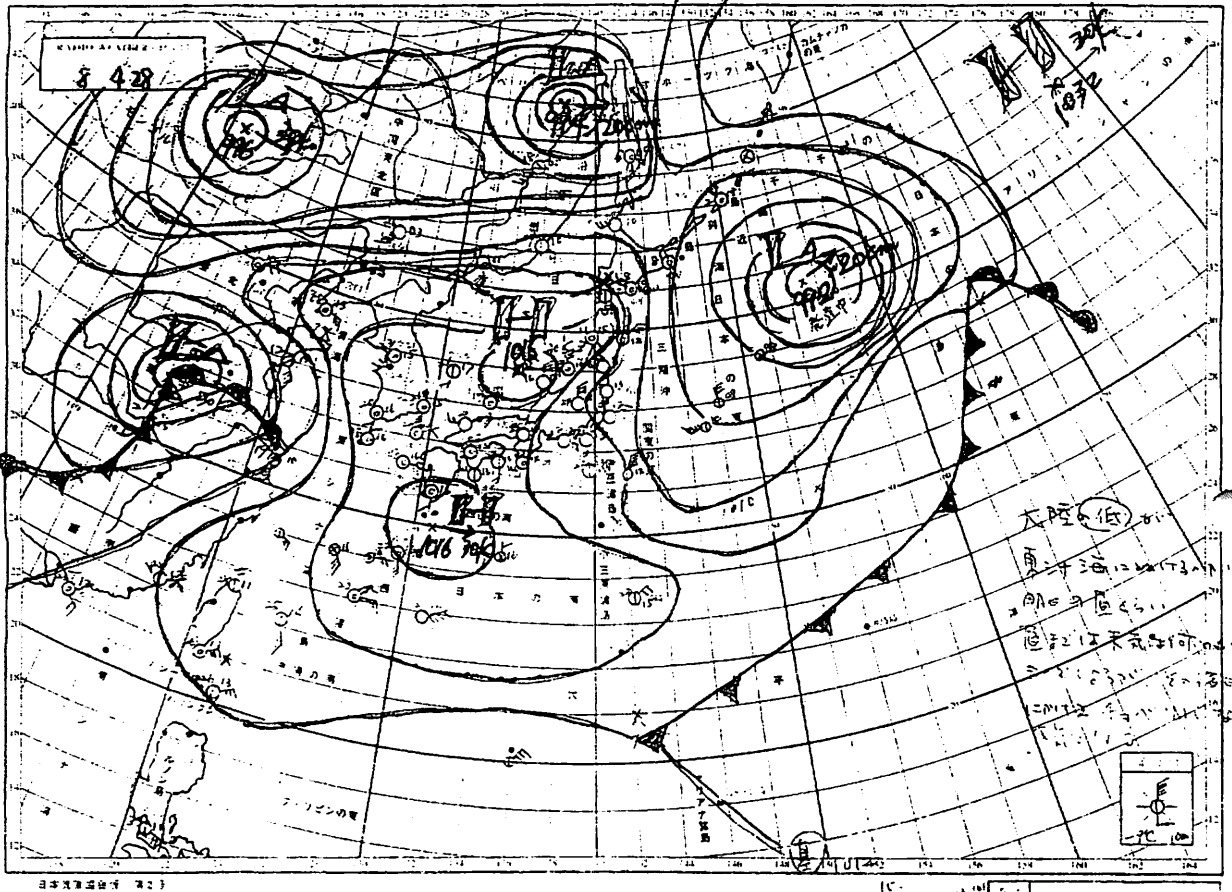
▽ 主な反省点

- ・ 長澤 竹和にも忘れる。
- ・ 準備が前日に集中したため、初日に寝不足が目立った。
- ・ 天候判断に約1日の狂いが生じた(高層読図)。
- ・ 合宿費が不足して(遭対基金約1万円)。

気象記録



158



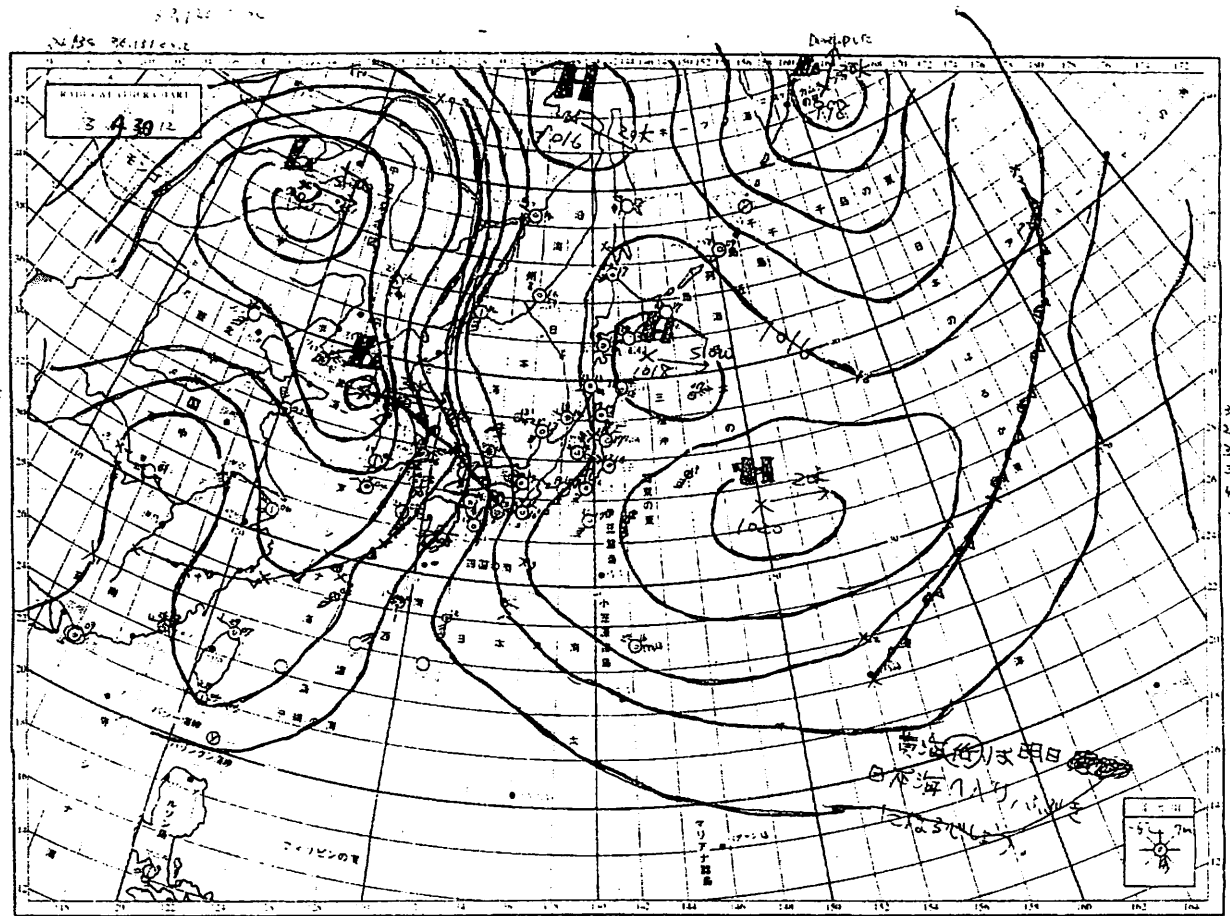
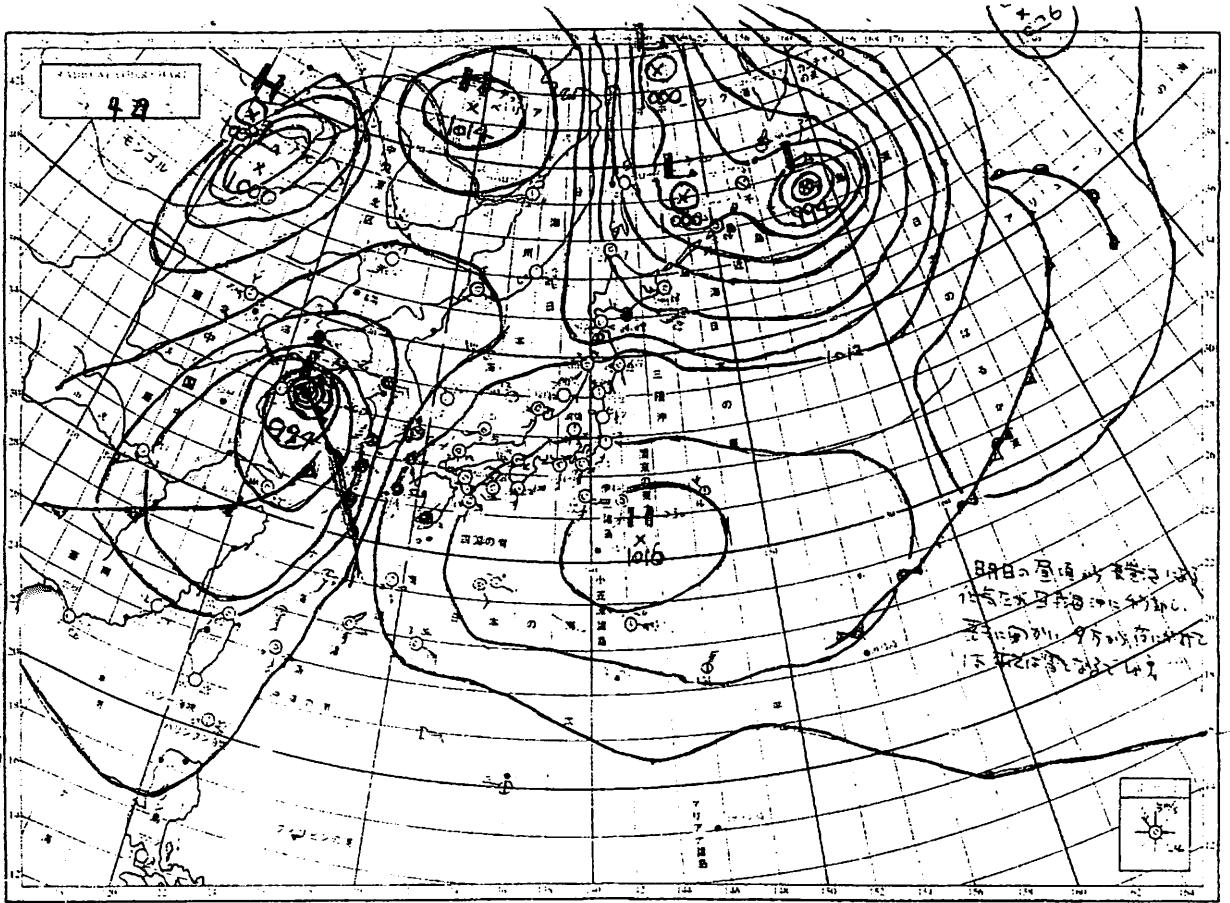
気象の反省

今回の合宿の敗因は高層天気図の判断ミスだったようだ。
 気象の係として、自分も高層天気図の書き方、予測の仕方など
 を免が強しておくらべきだった。

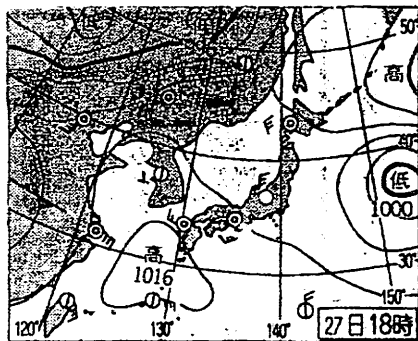
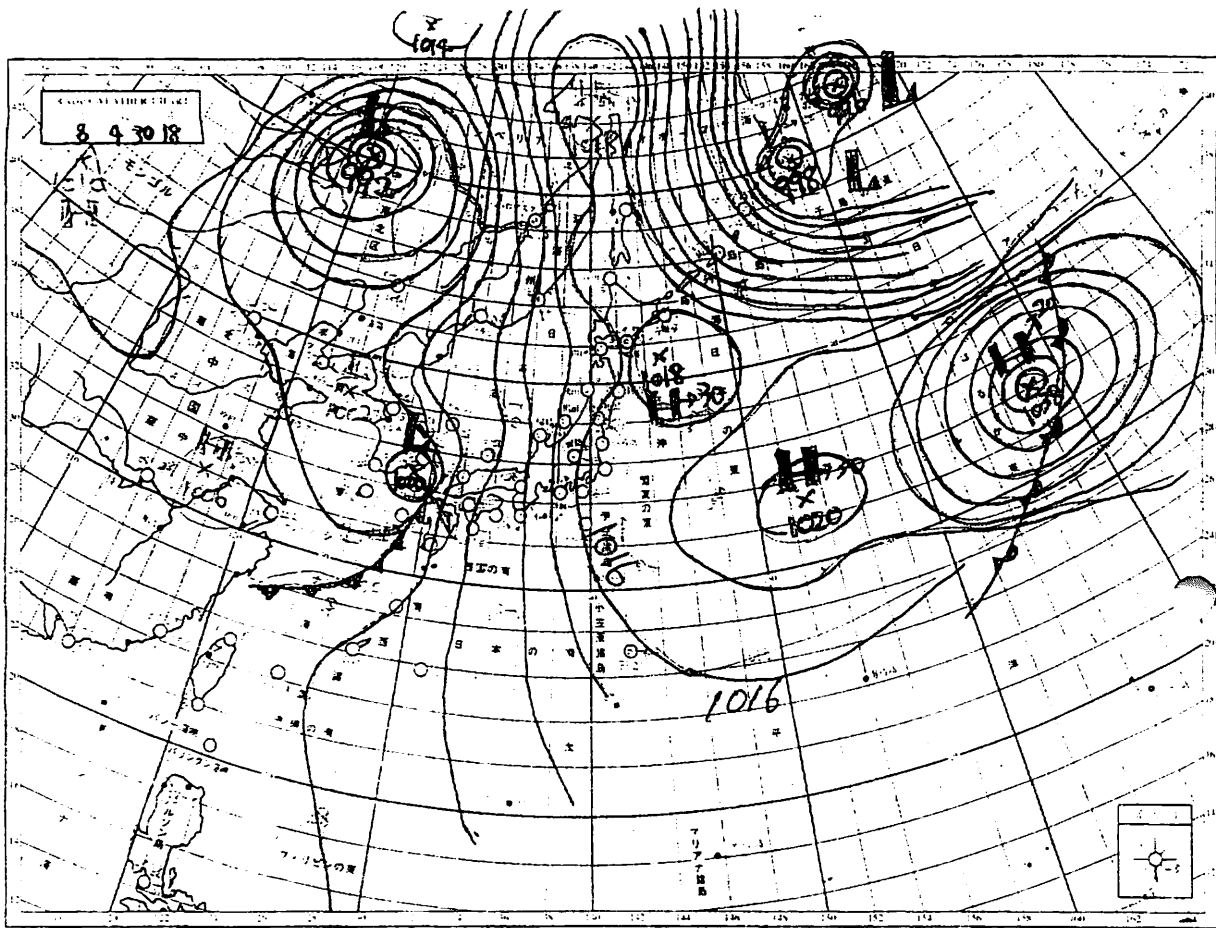
「私は青かった。(I was so blue that---)」



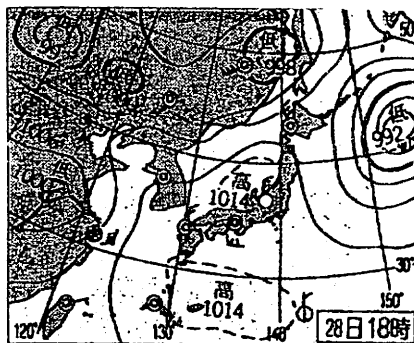
JK



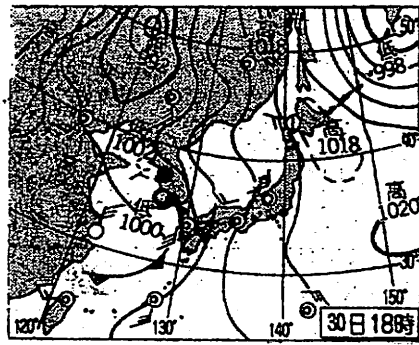
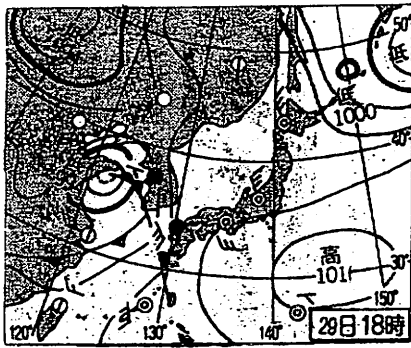
30.1
 26.
 21.
 37
 47
 38
 45
 52



本州付近は高気圧
に覆われ、長野県内は
晴天に恵まれる。

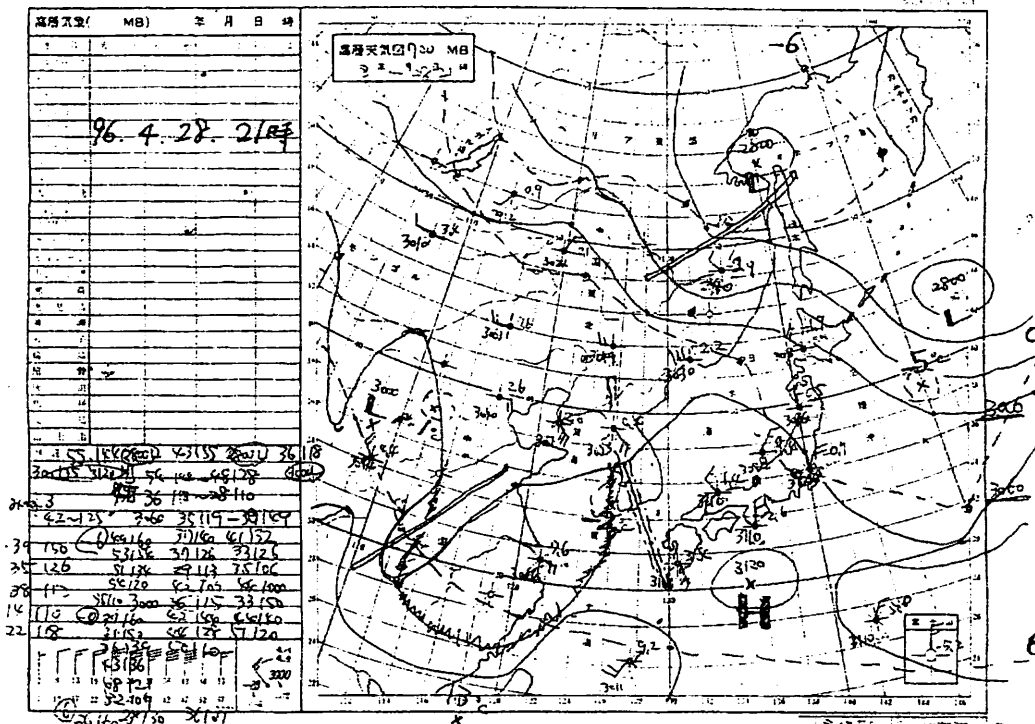


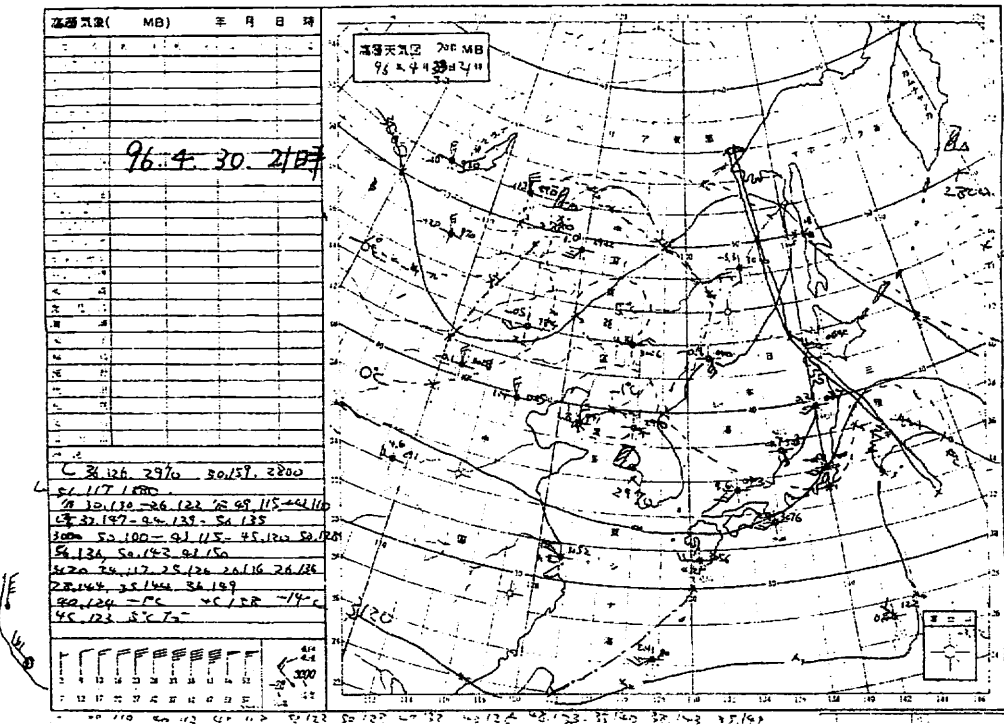
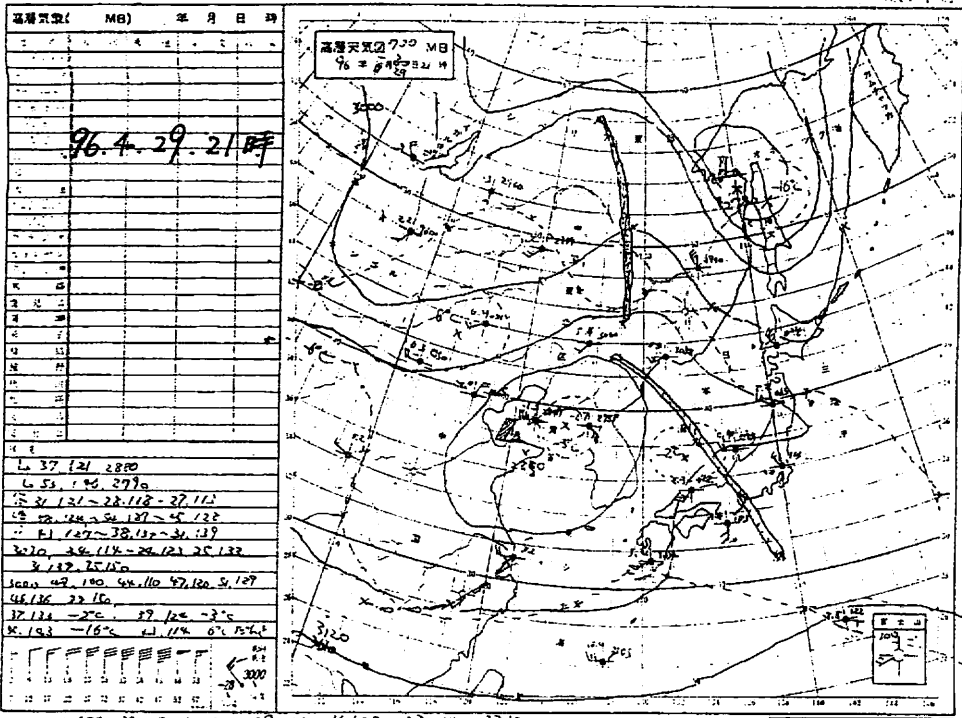
移動性の高気圧は
日本の南東海上に進行し、
引き続き本州を覆うが、
西日本に気圧の谷が近
づく。西から天気は中
く下り坂となる。



陽気をもたした高気圧
は日本の東海上へ遷り、
朝鮮半島付近には
前線を伴った低気圧が
進んでくる見込み。
県内天気は下り坂。

低気圧が日本海西部
に進み、前線が西日本
の南海上に進んでくる
見込みで、西日本から
気圧の谷の中に入ってくる。
南部を中心に天気は崩れる





高層天気図の利用

高層天気図とは

日常、新聞やテレビで見る天気図は、地上天気図といって、各地で観測された気圧の値を海面(海拔0m)の高さに換算して等圧線を引いてあります。

一方の、高層天気図とは、各地で観測された上空の気圧の値からある気圧の一定の面(例えば700hPa等圧面)の高度を等高度線として表しています。地上から約1.5km上空で850hPa、約3km上空で700hPa、そして、約5.5km上空で500hPa、約9km上空で300hPaと、それぞれの高層天気図があります。

マラヤなどでは500hPaや300hPaの高層天気図が利用されています。

高層天気図は、約3km上空の水平面での等圧線だと思って見てください。等高度線は普通高さ600m間隔の実線で引いてあります。

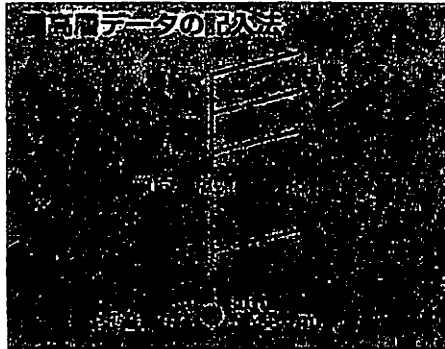
一方、気温の等温線は3度C間隔で色鉛筆か破線で示してあります。等高度線はその場の風向きを示して、風向きに平行となっています。風速の強いところや気温差の大きいところは等高度線および等温線が混み合っています。

高層天気図の書き方

高層天気図の放送は日本短波放送の高層気象放送として毎朝5時45分から5分間放送されています。地点は大陸奥地のイルクーツク

からはじまって、ソ連、モンゴル、中国、朝鮮を経て日本の鹿児島から北へ向かって札幌までいきます。高層のデータは風向き、風速、高度、気温の4要素で、さらに高層における高・低気圧の中心位置と高度、そして、気圧の谷や峰の位置、主な等高度線および等温線の位置が放送されます。そして、最後に簡単な気象解説が付きます。

風向きは地上天気図と同様に16方位ですが、風速の単位はノットを使用しています。風速階級表に

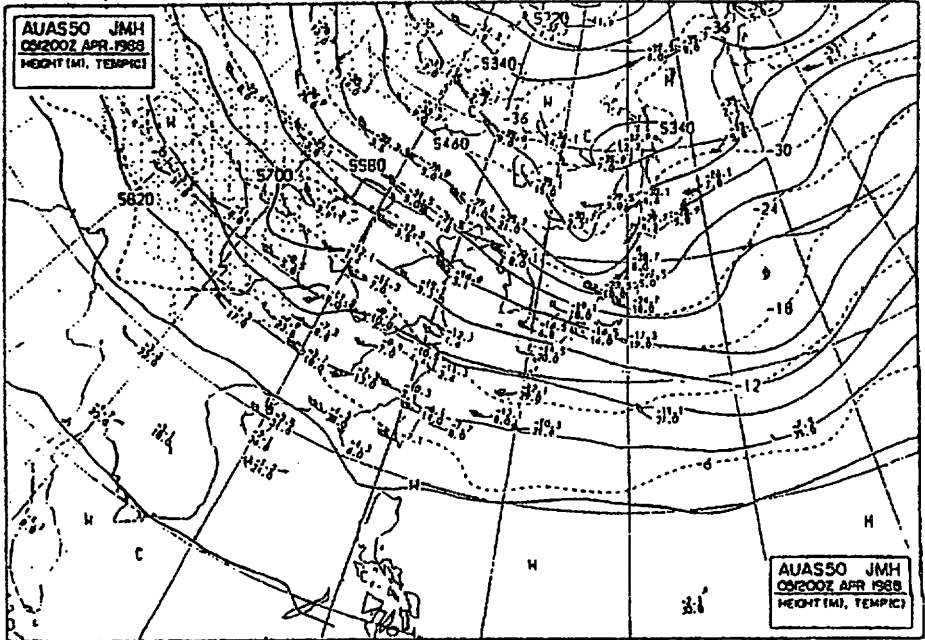


4.3



in KAMIKOUCHI

'96 5/26 もうひとつの新人合宿



■ 500ヘクトパスカルの高層天気図

もあるように、風速は短矢羽根が5ノット、長矢羽根が10ノット、三角のペナントが50ノットを示しています。風速のノットをメートルの秒速に換算しますと約半分にあたり、たとえば10ノットの場合にはおおよそ毎秒5メートルの強さと考えてください。

高度は地点の右上、気温は地点の左上を原則として数字のまま記入します。高度は4桁の数字で表されるため、慣れるまでは大変かと思われるかもしれません。高層の気圧の峰は細いギザギザで示し、高層の気圧の谷は縦線2本で示します。

等高度線は風速の矢羽根が付いている側が低くなるよう3000メートルを中心として60メートル間隔の実線、等温線は0度Cを中心として3度C間隔の細破線で引きます。また、暖気を中心は「W」、寒気を中心は「C」で示します。

●「リオリの力」
地球の自転座標系上にある流体が動くとき、北半球は緯度の右方向に向かって直角に右向きする力が働く。「リオリの力」は「リオリの力」ともいいます。「リオリの力」は風速を乗る「リオリの力」で、風速が大きいほど「リオリの力」も大きくなります。



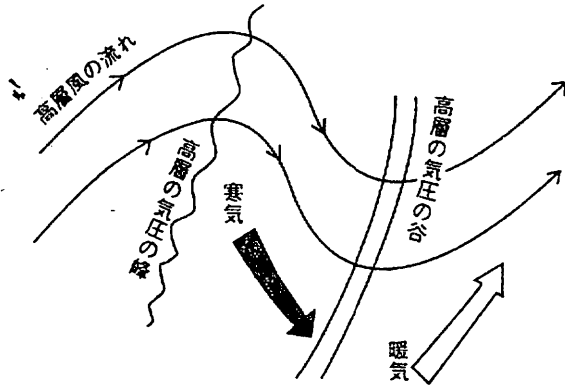
高層天気図の構造

高層天気図を作成してみると、地球の北半球の上空では常に西寄りの風が吹き、夏季は弱く、冬季

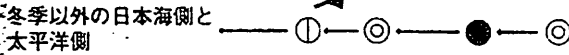
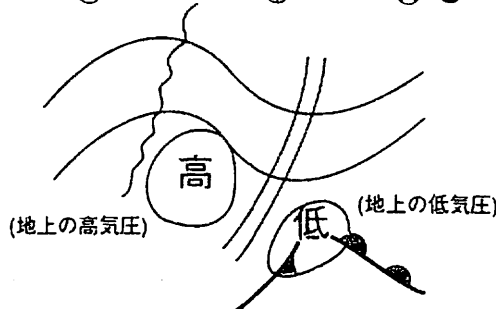
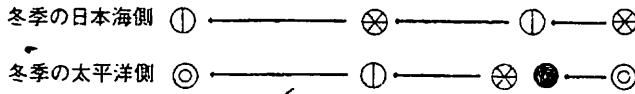
は強く吹いています。この西寄りの風を「偏西風」とよび、この偏西風の流れが地上の天気を大きく左右します。偏西風は北極や赤道などの上空

における南北の気圧差および気温差によって発生し、地球の自転の影響で波動が生じます。波動には大小の規模がありますが、7000km程度の比較的小規模（短波）

高層の気圧の谷と峰



高層の気圧の谷に伴う天気変化



天気図

短波と長波
日本の上空には偏西風の谷と峰があり、この谷や峰の位置が変動し、波動がある。この波動の中には短波（小波）と長波（大波）があり、短波は長さ約1000km、長波は長さ約5000km程度である。短波は数日間で通過し、長波は数週間かけて通過する。短波は偏西風の谷や峰の位置が変動するときに発生し、長波は地球の自転による科挙変動や、大気中の波動の伝播によって発生する。

な波動が現れます。この波動が顕著に現れるようになる。地上の高気圧や低気圧の勢力が強まってくるので、発達具合を見ることによつて、地上の高気圧や低気圧の発達状況がわかってきます。

西風の波動が南北に振動して、谷状になつて、いるところを「高層の気圧の谷」とよび、山状になつて、いるところを「高層の気圧の峰」とよんでいます。高層の気圧の谷の前面にあたるところでは南寄りの風が吹き、気温も高く、暖域となつて、上昇気流運動が起きて、地上に低気圧を発生させたり、また発達させたりしています。このため、高層の気圧の谷が接近してくると上空では南寄りの風がしだいに強まり、気温も上がつて、山岳地帯では様々な雲が発生し、悪天へと変わっていきます。

高気圧に対応するようになるので、天気はしだいに回復して晴れてきます。なお、この高層における気圧の谷の前後の天気現象は冬季を除く季節にあてはまるもので、冬季においては太平洋側と日本海側では逆の天気傾向を示すので、間違ひのないよう注意してください。

高層天気図と天気予測

以上のように、高層気象の特徴がわかっていると風や気温の変化による観天望気にも利用できるよふになります。高層天気図の利用方法と、実際の天気の子測方法をいくつか紹介しておきます。

①地上の高・低気圧は上空の風に流されますから、今後の進路は、高・低気圧近くの風の流れに（等高度線の走りやすい）沿つて進むと見ます。

向かつて進んでくるので、大陸方面からの気圧の谷の動きと台風の進み具合から、タイミングを判断します。

③高層の気圧の谷の後面における寒気の流入によつて、低気圧の発達具合、冬季における季節風の吹き出しとその強弱、それから大雷といった現象の予測が付きまします。

④等高度線の混み合つていころは、風が強いので、高・低気圧の動きが早くなります。

⑤等温線の込んでいころには、不連続線が潜んでいます。

⑥等高度線と等温線とが交わる角度が大きいほど、寒・暖気の流入が強く、高・低気圧は発達しませんが、逆に等高度線と等温線がほぼ平行になつていころには高・低気圧は発達しません。

⑦気圧の谷の前面と後面との気温差が大きいと低気圧は発達しまします。

⑧寒暖気団の中心位置を追跡して、高・低気圧の発達具合を判断することができまします。



1996.G.W. 合宿 会計報告 担当 小林

• 収入 :	合宿費 15,000円/人 × 7	= 105,000円
	遡対基金から臨時借用	= 10,000円
		<hr/> 115,000円
• 支出 :	食料費	29,670円
	整備費	6,790円
	交通費	68,210円
	“流し”のお兄さん3人にジュース	330円
		<hr/> 115,000円

G.W. 合宿 会計 反省と感想

反省. 合宿の会計を担当するのは初めてで、不備な点が多かった。厳正であることか求められ、細かい記録も必要とされる会計だったから、記録(領収書等)が不備だった。室堂では交通費が足りず、手回りの遡対基金から臨時に借りてしまった。全体的にドタバタした会計だった。

感想 合宿の会計は大変である。会計の失敗は万金・時間がかかり、おだけにヒリかえしのつかないことになりからだから、合宿全体にダメージして、慎重に進めるべきだと思った。

小林 茂幹



Essempの反省

事前の準備が遅すぎた。おそくまで中々してしまって、結局首を打たすことになってしまった。もともと前もって計画をたてるべきだった。あと、ノシカの量は1分には20分、10分は20分調味料類の量が少なかった。もっと増やさなければ。疲れているので味が濃い方がおいしいはずだから。各人の所感も考えていかなければいけないと思う。マカポの量を減らすという意見があった。マカポは食べ慣れた人と食べ慣れない人がいるので、食べ慣れた人は問題ないが、食べ慣れない人はどうだろうか。次回 ESSEMPをする時にもこの辺りを意識してやる。次回 ESSEMPをする時にもこの辺りを意識してやる。

GW合宿

～ 装備の反省～

原田 亮介

今回初めて装備係を担当したが、もう少し早くやれてもよかったのではないと思う。まず準備にしても準備の日までに全体のチェックを行っておけば、いくつかの不備を防げたと思う。メタロウソクなどの消耗品は前もってそろえておいたのは失敗だった。

細かい点に関しては以下のとおりだ

- ・ICITのポールが見えがず急きょ別のテントを用意することになった。
- ・天気図用紙が最低限しか残ってなかった。
- ・ガス板を不必要とみなし、もっていかずがやはり必要だった。

(消費量)

- ・メタ 30本(60回分) 中 18本使用
- ・ガス 7人中 9.75L使用
- ・電池 替え電池使用なし → フォースター 1本、ラジオに2本

PP

Self examination

G.W合宿の反省

山内 哲文

今回の敗退の最大の原因は「天気判断ミス」であった。4日目の予定の別山尾根～本峰～早月尾根の所々その日は午前後から天気が崩れるとみて、前剣ピストンだけでおわらせたことだ。結局その日は1日中天気は崩れず、「これやったら早月小屋まで行けたなあ」という事になったのである。この前剣ピストンの判断の根拠は

- 前日の天気図と朝の高層天気図の④の重みから午後からは天気が崩れると判断
- 別山尾根、早月尾根の積雪期の様子について不確定な要素が多い。
- メンバーの力量から思天下の別山尾根or早月尾根の下山は危険。
- 3000m付近でのヒバークはしたくない。

であったが、あとで高層天気図をみると、④の前方に気圧の山がはたしてきてそれが④の速さをおさえた事に気付いた。「早月に気付いていれば…」ということであったが、もしも朝にこの気圧の山に気付いていたとしても僕は前剣ピストンまで引き返していたと思う。なぜならば、この気圧の山は早月の時点では「今日1中はもつがもしれない」という可能性でしかなく、「100%絶対に今日はもつ」という確信ではなないからである。僕はこの合宿では「確信をもたなければつこまない」ことにしていた。それは積雪期の剣という不確定性の大きい山域と、メンバーの力量と④からの判断である。

この種の不確定性というのは、「ハイゼンベルクの不確定性原理」のように決して0になるものではないのだが、高層天気図を勉強したり、積雪期の入山日数をふやしたりして、経験と勉強によって限りなく0に近づけることができる。そして $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n}$ となったときが 剣岳登頂(厳冬期)のときである。



< GW合宿反省と感想 伊藤 勇太郎 >

まず今までGWは個人山行形式か合宿形式か定まっていなが、だが、今回合宿をしてみても感じたことを書いてみる。

長所: 新人合宿前に2年生も含め雪訓、雪上技術と知識の統一がはかれる。

- ・2ヶ月ぶりの全員集合により会員各人の意識を確認し合える。
- ・春の熊走後であり、5月という気象条件により合宿としては比較的困難な所、冬に向けての真摯山行式できる。
- ・新しい技術の紹介の場となる。

短所: 稽古がはじまればばかりで、地しく、またGW合宿、新人合宿と続けて2回も稽古を休むことになる。

- ・合宿にすることにより、個人の好きな山、行きたい山に行けぬ。

次に自分の反省点として高層天気図がある。読むことはもちろん満足に書くことができず(7月冬合宿と身にしみて中から来たのだが)結局行動できる日に平日しか動かず、3日が元で剣沢より室堂へ雨の中下山とあてしました。

地上天気図だけでは冬の気象判断はどまぬと痛感した。また、下山、残りのGWをどう過ごすか悩んでいると、なんと低気圧の影響が長びくと予想し下山したのに、日暗かつ日があつた。女もどダメもど沈殿しおけば再び霧がふたあつたのだと後悔するはめにあつた。

山は計画的な地道な積み重ねと登るという意識が大事なんだと改めて思った。

計画は失敗したが、哭い声のたふない楽しい山行だったのはよかつた。ただ、各人どにかで「やめはせよ」という気持ちと甘えやごまかしでは山は登れぬことを重きに命じてほしい。そして日々、積み重ねを大事にし今後の山行ははげもうではないか。

○5月連休合宿での感想と反省 長澤 徹哉

今日は全行程も歩き通せなかった。そして、もっと天候判断の力を身につけていけば果たせたと思われることでも残念だ。知識を身につけていきたい。

合宿の内容では、雪訓・搬送といった技術をおさらいし、新しいことも学んで充実していた。

より精進し、いかに実力で剣岳を目指したいものだ。

この合宿で、著しく体力が落ちた事がわかった。雪山縦走などで全くいって...
ほとぼりした事がなかったのに、二人は初めであった。新人合宿では何とか今まで
くらいに死にたい。雪訓の時は、だいぶ忘れていた動作とかがたぶんあって、二人が
何かしなきゃいけない。Fixの張り方やスタートはスムーズにできたが、セマコンなど、
遠征で必要な技術を、と練習すればよかった。あと、2年にならなくてから、今さら3、4年生
に注意されたいように、もっとしっかりしなきゃいけないと思った。

結果的に敗退したけど、今回の合宿は楽しかった自信があった。今まで見てきたような
Fix張りなどができるようになるからいい。しかし、早月尾根には行きたかった。俺は
まだ初心者の事だったので近いうちに行きたい。来年は剣沢定着で2日雪訓。3〜3日登山
といったような計画を立てて実行してみたい。

G.W合宿の感想と反省

場崇行

- ピッケルストップの背中から落ちる時が非常にこわかった。
- 次からはこおさずにやろう。
- 睡眠不足で体調が悪かった(初日)のどみんなに迷惑を
かけてしまった。これからは気を付けます。
- まだまだ体力不足のような気がした。トレーニングしてもっと
体力をつけるぞ!
- もっと山に行き、技術を学ぼう。

～G.W合宿の反省・感想～ 原田 亮介

今回の収穫は何となくとも雪訓での技術習得であった。
今まで漠然と憶えていた技術が確認できた。やはり山で紙
の上のみで学習したものは実践できなりのだと改めて実感した。

反省点は117も言っているようにだが、山行前の睡眠・山行
前の体調管理・忘れ物の3つである。これらの誤ちを再び
繰り返さないように新人合宿では準備の段階でもっと気を
をつけてほしいと思う。

G.W. 合宿 反省と感想

反省. 合宿初日、連日の寝不足の結果、19日に負傷を起こして
しまった。荷をみんなに分けてもらい、その日数9日に
回復したが、情けなかった。行動中、その日以外はついて行け
たが、“ついて”行けたのではまだ足りない。体力をもっと
つけたい。天候が前半は良く、後半剣と前にして崩れろと
予測されたのは残念だった。結局天気は保ち、剣も越えられ
たはずだったのはさらに残念だった。天候判断が積極的にで
きるようにしたい。雪訓がメインの山行として考えると、充実し
ていたと思う。

感想

去年の夏合宿以来、最も好きは山の一つとなった剣岳に
また登れると思うとうれしさで一杯だったが、初日の19日は
キツかった。雪訓も楽しかったし、室堂へのリセードは長くあ
るゴキゲンだった。剣に立てなかったのは残念だったが、雪のつた
ハツ峰と見れたのは感激だった。

小林 茂 幹



新人合宿

新人合宿をおえて

山内 哲文

1週間におよぶ合宿が終わった。幸運にも連日晴天に恵まれたが、不運にも B.C.にはカゼのウイルスがはびこっていた。そのウイルスとたたかいながらくらしした山での経験は必ず自分の力となるだろう。人は傷つけば傷つくほどやさしくなれるように。しかしただ経験をためばいいというものじゃない。傷つけば傷つくほど底意地の悪くなるやつだっているのだ。山での経験を正しく振り返ってそれをさらに前へ進むための力にかえていこう。そしてその時、十代のピュアなスピリット、たぎり立つティーンエイジのソウルを常に持ち続けることを忘れてはいけない。

行動記録

記録 <伊藤勇太郎>

5/26 4:30 Box 発 = ◎ 5:40 発電所手前の林道途中、こより A.B 隊に分かれる

1. A 隊 L. 山内・長沢・小林・原田・川井・田中・平松・妻谷

◎ 6:05 出発 - ◎ 6:30 砂防ダム - ① 8:30 瀬戸下橋 - ① 9:40 岩魚留小屋
- ① 14:45 熊本峠 - ① 17:12 白沢出合付近 T.S.

2. B 隊 L. 伊藤・堺・花谷・中島・松藤・野田・川村

◎ 6:05 出発 - ◎ 7:20 二股 - ① 9:35 岩魚留小屋 - ① 15:00 熊本峠
~ ① 16:10 峠発 - ① 17:12 T.S.

* (工事中に 19:00 頃 平松が足を打つた
17:45 頃 22:00 頃 上野が T.S.)

◎ 今日はいかに登山だのよもかかからず、悪悪く困窮をこらしてしまふ。体調には気をつけて。 (前日に田代に飛ぶ込まない) 妻谷

◎ おまり言えず、いい日でした。もう何回歩くのよやめおと考ふたことか。「ああ水だ、落ちたし、長時間、いゝかもー」なんてずと頭の中で廻っていたことば。それ、自分の体力の無さを今まで以上に感じた日でした。でも、この記録を書けるということは、筋にこたはずいことになると思う。とこで、おなまは山に登っている時、なにを考えているんだらうか。私は B 隊の歌謡を考えています。なかなかにいいものやうです。それはまたいつか個人的に考えます。最後にやはり精神力(和弱かと思ふ)を、つけないといけなと感ふ日でした。

川村

5/27 自派生合付赴 T.S. 4:00 工場の起床 - 6:00 出発

1. 本隊 L. 山内・長沢・原田・堺・花谷・柳井・田中・妻谷・松藤・野田・川村

① 徳沢 - ① 9:40 榎尾 B.C. (こより 山内と一年生はマキの311ヶ所を計測
堺は上高地へ下山)

2. 雪測量隊 L. 長沢・原田・花谷

① B.C. 榎尾 20 - ① 12:35 涸沢合付赴 この西側斜面に上, 2 ヶクスター, 7ヶ所
ヒツケスター, 7ヶ所を確認

② ① 13:45 涸沢 ~ 14:20 - ① 15:20 B.C.

3. 上高地東本匠大診療所へ向かう。伊藤・平松

① 7:00 上高地 - ① 8:30 診療所入り ~ 9:30 ~ 10:00 上高地発 - ① 11:00 徳沢
- ① 11:50 新村橋 - ① 14:00 B.C.

○ 前日の夜平松が左大腿部にカ-ヒ 2ヶ所, 20~15cm 四方ぐさの火傷を負う。11:20 分
ほど冷やし, 消毒・ガーゼ・包帯をする。入山前に平松は引の薬(煙草葉)を飲んでいたため
その晩は痛みにはまされずにはなかつた。

診療所にて 2度の重傷の火傷だと言われ, 前日にはまきでいながら水泡ができていた。

水とぬす, 消毒と林産物(炎症止め・鎮痛薬)の薬も511, 感染に気をつけると言われる。
必ず2日に一度はここに消毒するおにとも言われる。激しい運動(走らぬ等)もせざるな
とまづ言われる。

伊藤

○ B.C. より下界へ出動する者あり 2人での雪割りとあつたが準備は万全だと思ふ。
がハロ-。よくお水を通り, 今年は「し」かりと冬なおで、1ヶ所 暖冬傾向を感
た冬なおで、ここ涸沢にも雪が厚かつた。「し」こんな谷を氷平移動でまたり, 涸沢
に「し」こんな雪で高くなった所があつた。こんな所を走ると大相違なくなつた。3ヶ所
よい除除にもなるたうな。頼もしいことだ。 長沢

○ 昨日, 今日と天気がよくて, 山をふらふと華やかしい日だ。が, 肩が痛い, 喉が痛い。
下りる人が焚火に12に12, 少く寒いぞ。

小不 山は前夜真暗の中へ1人駆け下りて行きたが, 無事本陣に着きまはつた。山
環工, 上げてる時は, おみせが乗れぬ。12に12。

今日の山行は昨日に比し 比較にならぬ程楽で好都合だが, 前日の疲労と
寝不足が相まって思ひの外に疲れた。夜型のリズムで山に行くと調子が狂つて
しまう。常に喉が渇, ています。たすく食いたい。

中島

5/28

1. 本隊。L. 山内、長沢、花谷、原田、栗谷、田中、中島、川井、川村、松藤、野田 × 淵沢、伊藤

3:30 起床 (工セ) - ① 5:05 B.C 発 - ① 6:10 淵沢 出合付近 (淵沢ダニ) -
① 7:02 淵沢 ヒュウ 7:02 ~ 8:20 - ① 8:33 5.6m 下の斜面にて雪訓。雪中雪上にキ
レリが好ため北東へ移動 - ① 11:30 噴雪崩発生 - ① 11:43 淵沢 ヒュウ 戻る。 -
① 12:30 淵沢 ヒュウ 下にて雪訓 - ① 13:15 終。下山開始 - ① 14:15 B.C

2. 診療所。伊藤・平松

① 9:00 B.C 発 - ① 12:00 上高地 診療所 到着 ~ 13:00 - ① 16:00 B.C.

○ 治療の結果新しい皮がどまかが、やはり、また2日後に来るほ
しいとのこと。ぬれてしまった場合はやむをえず、自分で消毒し
てもいいと言われたが、感染による悪部がケロイド状になり跡が
残ることになり、体にバイキンがまわって発熱のおそれもあるの
で、十分注意するように言われる。平松はやはり雪訓なし本隊
の行動に加わりたいと言うし、私もここで主ちんと精進を伝え
ておきたいので、明日は淵沢走りヒュウケルストップをさせないこ
にして、本隊に加わってもらおう。伊藤

○ 今日生まれて初めて山の中で走った。最後の方は走るといふ
よりは歩きといった感じになってしまったが、(や、こころ楽しかった(ウソ))。

雪訓中遠くで雪崩発生。「あーあれが雪崩か、と少し感動してい
たり、自分達の頭上でも発生。いそいで淵沢ヒュウラに避難する。
発出した時はこわいと思わながら、たが、30分ぐらいいしては膝がバ
クバクいい出した。も、と心の反応をほしくしたい。

今日も1日お疲れさま。明日も1日頑張ります。

P.S. 栗谷君... も、と体五大切にしましょう。川井純でした

○ 今日雪崩中に真横で雪崩が起きました。こわいとは思わず「あー雪
崩だ」とぼーと見てしまった。ゆゆしきむとだ。今度から走って逃げ
なくては。雪がくさってグリースートがあまりどまなかった。残念。

野田



5/29

本隊・L.山内、伊藤、長沢、花谷、原田、川井、川村、中島、松藤、田中
妻谷、野田

3:00 起床(エヒ) - 4:10 B.C. 出発 - 5:40 洞沢土合付近 - ① 7:10 洞沢ヒコッテ
- ① 7:25 雪訓開始。 - ① 12:24 終了。洞沢発 - ① 14:00 B.C. 着

。今日ボウのカッパには2ヶ所目の穴があいてしまった。ヒコッテまた今日も走らされた。これで2回目だ。また明日もせいのかと思えば逃げ出したくなる。ボウもカゼをひまていたなあ。 松藤

。カゼをひいているのに無理をしてみました。自分のためはみんなが迷惑な事もある。これからは考え直したい。

5/30 1

1. 本隊・L.山内、長沢、原田、花谷、川井、川村、中島、松藤、田中

妻谷、野田はB.C.にてSTAY 界、B.C.に入山

3:00 起床(エヒ) - 4:30 B.C. 発 - ① 5:15 洞沢土合付近 ~ 6:15 - ① 7:10 洞沢ヒコッテ - ① 7:45 雪訓開始 - 9:15 自出のツル向かう - ① 11:20 自出のツル - ① 12:10 洞沢土合山頂 ~ 12:55 - ① 13:10 自出のツル - ① 14:00 洞沢ヒコッテ - ① 15:30 B.C. 着

2. 診察所 伊藤、平松 30名 伊藤下山

① 4:30 B.C. 発 - ① 7:30 頂上高地。ここで伊藤は平松と別れ、徒歩峠を越えて下山 ① 上高地発 - ① B.C. 着

。今日初めて3000m以上の山に登った。山頂からは前穂のI、II、III峰の高士の差がはまりわかり、又快晴であったため、遠方には槍ヶ岳が頭上のみかしていた。

オレは明日の朝下山するので、S/A 槍ヶ岳には登頂できないのだが、残りのX-12には全員登頂してほしいと思う。 田中

5/31

本隊・L.山内、長沢、花谷、界、原田、妻谷、川井、川村、平松

田中、松藤は上高地へ下山 田中に伊藤と小林が入山

3:30 起床 - 4:55 B.C. 発 - ① 6:00 新村発 - ① 9:25 奥又白 ~ 10:25 - ① 14:40 B.C. 着

。今日は初めて登山に参加できました。雪訓の時もそうだったが、雪山をゆくりゆくりこんで登るのは好きだ。くだりは膝がひけて何度も

6/1

本隊 L. 山内・伊藤・長沢・花谷・原田・堺・小本木・川井・川村・中島・菱谷
野田・平松

2:30 I. 如表床 - 4:05 B.C 登 - ① 5:00 - 1 候沢出合 - ② 7:15 大まがり。
こはり Fix 隊先行 ~ 7:45 - ③ 10:25 檜の肩。こはり Fix 隊と同法。登はん陸
出登 - ④ 檜の山頂 - ⑤ 13:30 頂肩にて全員合流 ~ 出登 -
① B.C 着

2. Fix 隊 L. 山内・花谷 (神戸高10-7?)

7:32 大曲り登 - 8:40 新庄比, 7 - ① 9:20 檜の肩 - Fix 設置 - 檜の山頂 -

3. 小檜隊 L. 伊藤・長沢

① 10:55 檜の肩登 - ② 11:25 小檜取付 ~ 35 登り止み - 12:4 (大檜の山頂より上り)
- 2 比. 4 相 11:55 ~ 12:40 (長沢は登り止みでアイゼンなど付けたまま uin になりながら
ここで伊藤のみ懸垂で下る。) - ③ 13:00 肩頂向う - ④ 13:25 檜の肩

。ながり、ながり 1 日たつた。おん合宿。毎日本クライマックス (最佳境) のこの
合宿のなかで、雲はうそで、檜目指すの日だけ特別な日ではない。
しかし、僕には特別な 1 日たつた。去年のこの日に登れなかった檜に立ち、
参加した少ない日程の中でおんなじ檜に立ちたのである。田中と松崎は
残念だったが、檜はいつてもうそこにいる。残念なことは、〇〇が〇〇が
ゴゼンの天の守が悲愴な結果となったことである。あと中島よ、おんおのまね
と称してサルのものをあげるおんはやめてくれ。 小林

初めて Fix 隊員になった。Fix する事より、何処を通る時の方が
とりにとりにした。 花谷

6/2

① 7:44 B.C 登 - ② 8:40 新村橋 (お基登り) - ③ 10:25 徳沢園 - ④
15:10 タクシ-乗り場・上高地登 = ⑤ 17:30 松本・Box 着

。胃をやめた。吐いた。風邪で弱っている胃にサプリメントが飛ぶこまごま
ま、てくらました。
P.S. シゲトの飛ぶかいらや明後橋から飛ぶこまごまにてくれ。サレたおんてりせ
川村飛ぶ - 原田希介

1996年 新人合宿 会計と渉外 長澤 徹哉

• 収入 合宿費 $1.5000 \times 15 = 22.5000$ 円
カ>11° 古賀さんお 5000円
長谷川さんお 3000円

23万3000円

• 支出 食糧費 10万4346円

装備代 1万1836円

交通費(行) 車代 6000円
藤江・博多・佐々木3氏
1000円

伊藤・山内
(帰)名鉄タワシー 2万8000円
上高地~信大×2台
2610円

上高地~新島々
バス 5000円

ビール代 5180円
ジュース・アイス代 2250円

16万6222円

• 残金 6万6778円 → 返金(人)3900円
(計)5万8500円
↳ 装備代に8278円

鳥ヶ谷の入口では土砂崩れの箇所があった。他大車なし。

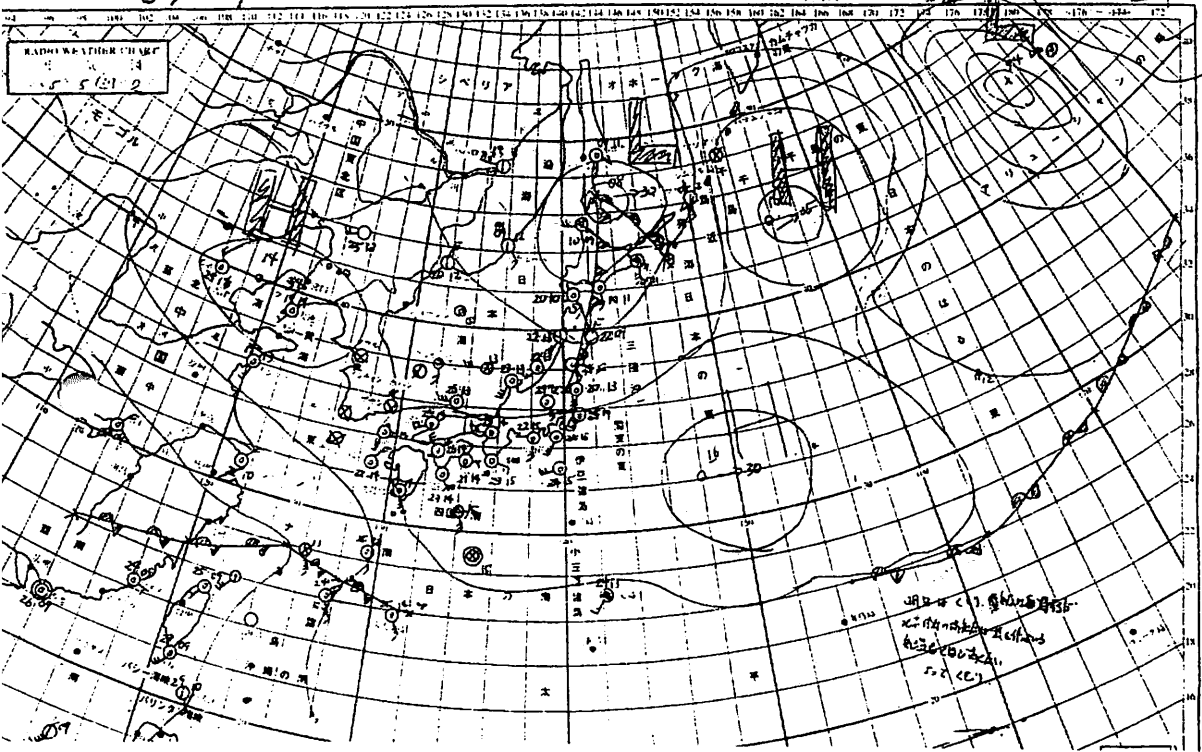
クルマを出していただいた方々、朝早くにありがとうございました。

気象記録

5/27 12:00

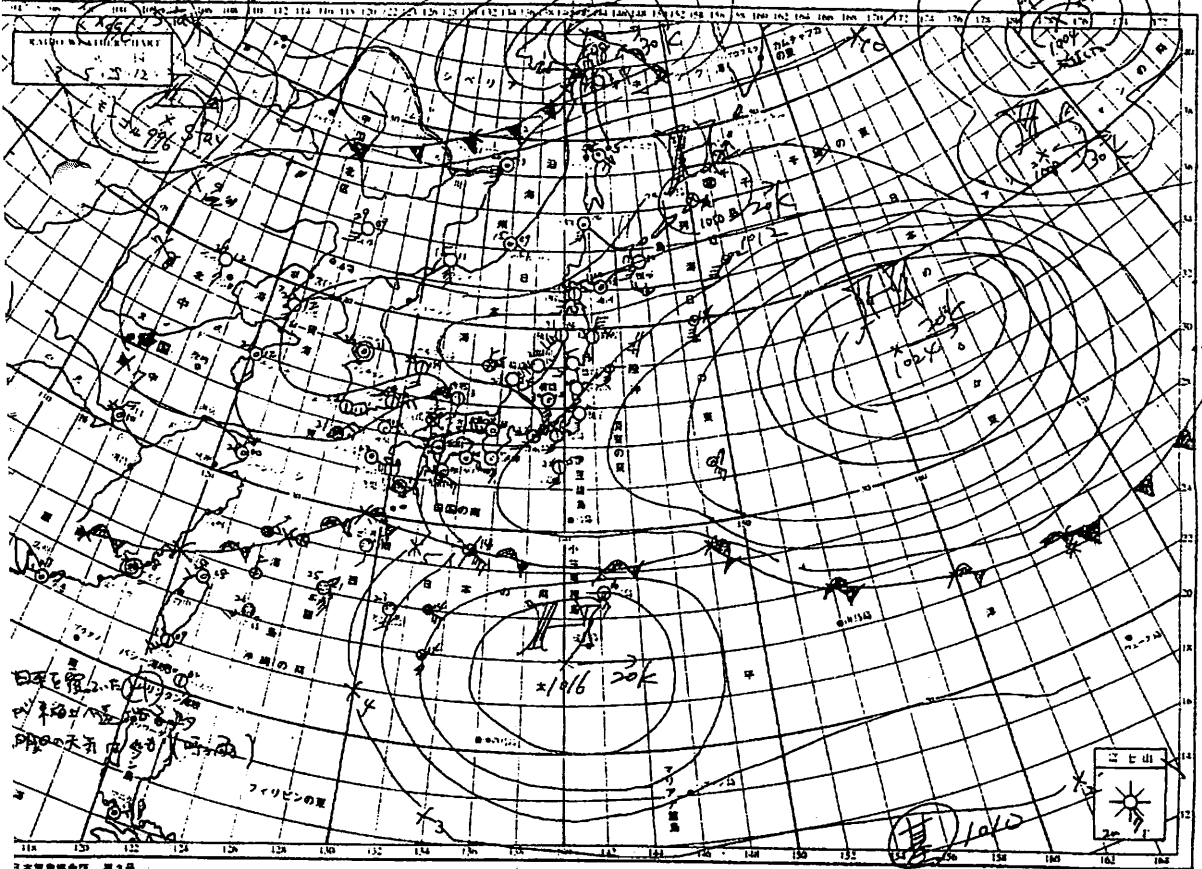
12

31 124 97 127 37 146
 24 124 27 127 27 161
 40 103 44 103



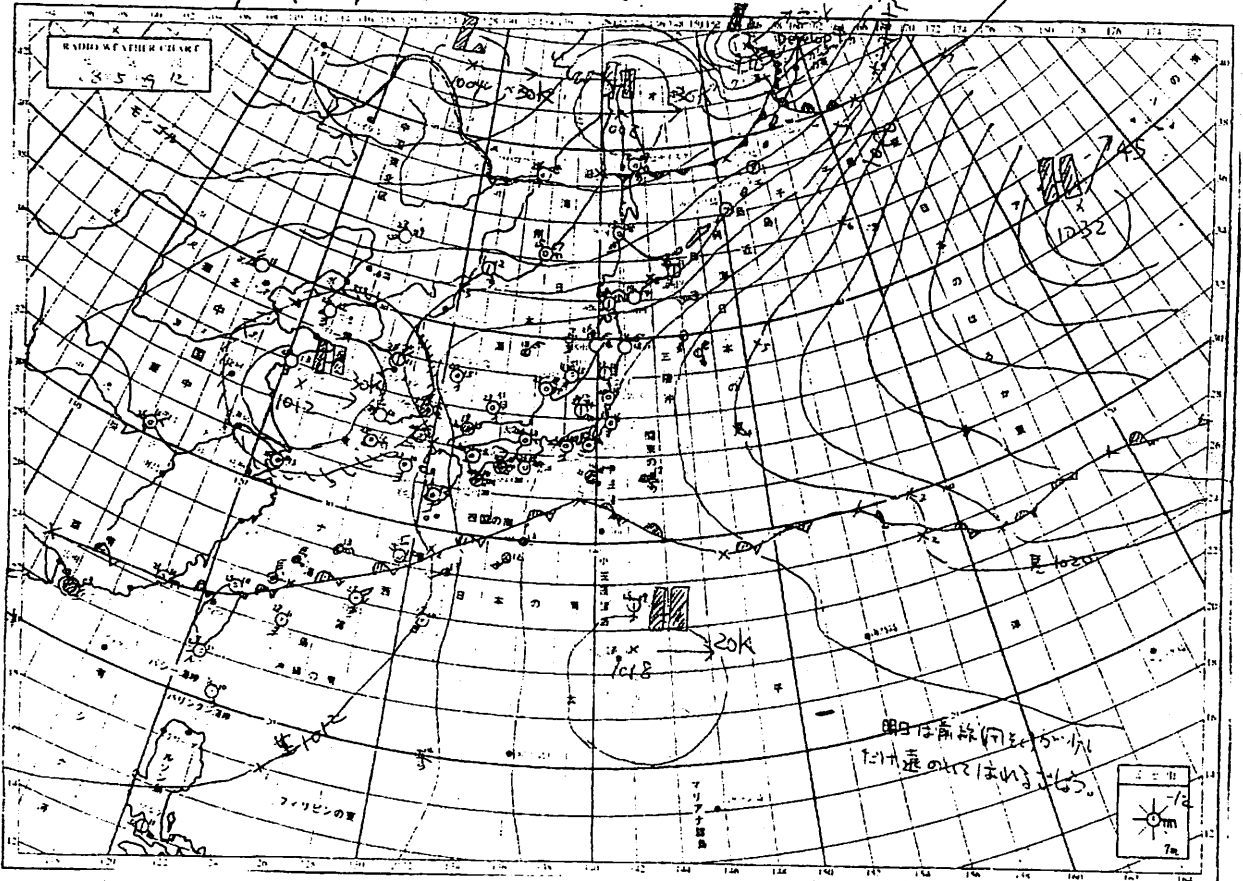
湖口 (C) 雲の厚さ
 2000m 以上
 1000m 以下
 500m 以下

5/28 12:00

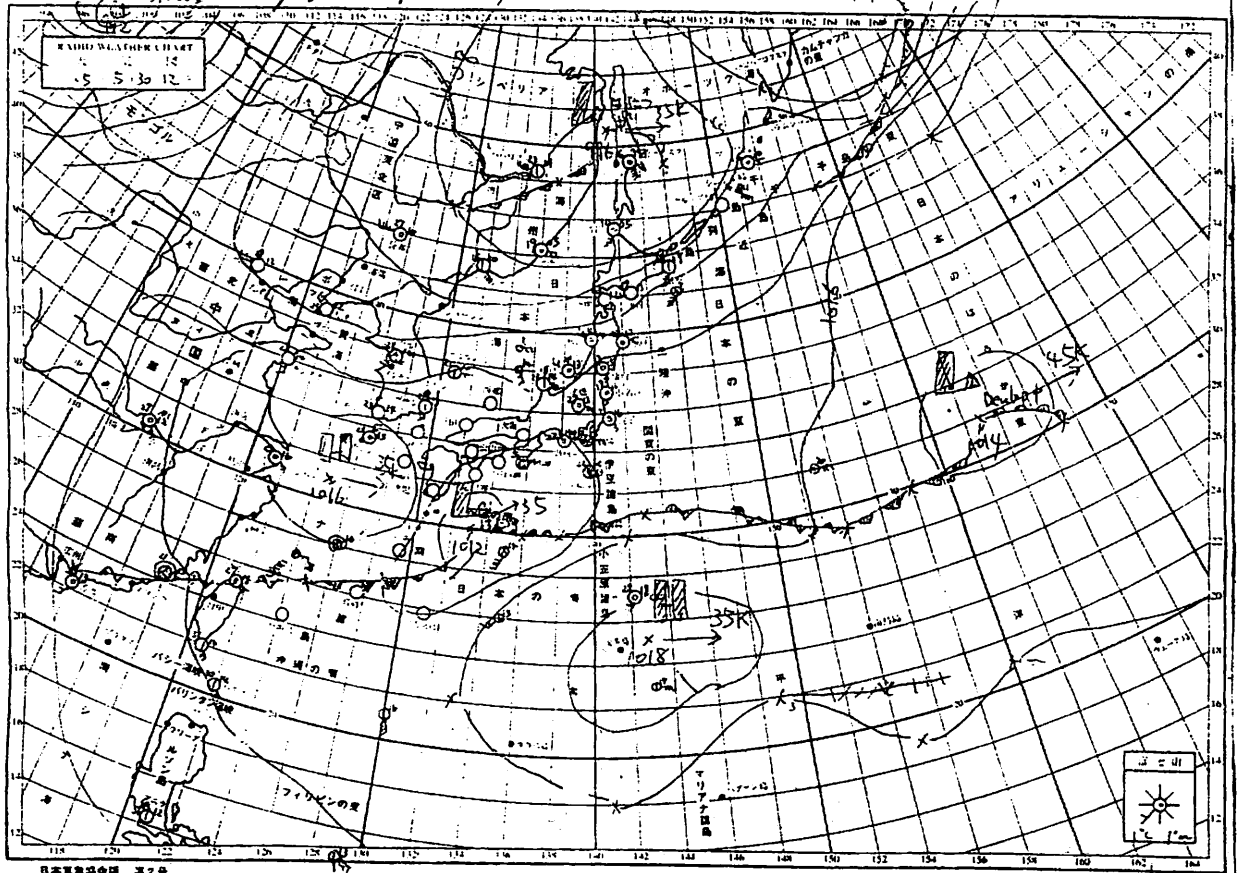


日本七領 (C) (D) (E) (F) (G) (H) (I) (J) (K) (L) (M) (N) (O) (P) (Q) (R) (S) (T) (U) (V) (W) (X) (Y) (Z) (AA) (AB) (AC) (AD) (AE) (AF) (AG) (AH) (AI) (AJ) (AK) (AL) (AM) (AN) (AO) (AP) (AQ) (AR) (AS) (AT) (AU) (AV) (AW) (AX) (AY) (AZ) (BA) (BB) (BC) (BD) (BE) (BF) (BG) (BH) (BI) (BJ) (BK) (BL) (BM) (BN) (BO) (BP) (BQ) (BR) (BS) (BT) (BU) (BV) (BW) (BX) (BY) (BZ) (CA) (CB) (CC) (CD) (CE) (CF) (CG) (CH) (CI) (CJ) (CK) (CL) (CM) (CN) (CO) (CP) (CQ) (CR) (CS) (CT) (CU) (CV) (CW) (CX) (CY) (CZ) (DA) (DB) (DC) (DD) (DE) (DF) (DG) (DH) (DI) (DJ) (DK) (DL) (DM) (DN) (DO) (DP) (DQ) (DR) (DS) (DT) (DU) (DV) (DW) (DX) (DY) (DZ) (EA) (EB) (EC) (ED) (EE) (EF) (EG) (EH) (EI) (EJ) (EK) (EL) (EM) (EN) (EO) (EP) (EQ) (ER) (ES) (ET) (EU) (EV) (EW) (EX) (EY) (EZ) (FA) (FB) (FC) (FD) (FE) (FF) (FG) (FH) (FI) (FJ) (FK) (FL) (FM) (FN) (FO) (FP) (FQ) (FR) (FS) (FT) (FU) (FV) (FW) (FX) (FY) (FZ) (GA) (GB) (GC) (GD) (GE) (GF) (GG) (GH) (GI) (GJ) (GK) (GL) (GM) (GN) (GO) (GP) (GQ) (GR) (GS) (GT) (GU) (GV) (GW) (GX) (GY) (GZ) (HA) (HB) (HC) (HD) (HE) (HF) (HG) (HH) (HI) (HJ) (HK) (HL) (HM) (HN) (HO) (HP) (HQ) (HR) (HS) (HT) (HU) (HV) (HW) (HX) (HY) (HZ) (IA) (IB) (IC) (ID) (IE) (IF) (IG) (IH) (II) (IJ) (IK) (IL) (IM) (IN) (IO) (IP) (IQ) (IR) (IS) (IT) (IU) (IV) (IW) (IX) (IY) (IZ) (JA) (JB) (JC) (JD) (JE) (JF) (JG) (JH) (JI) (JJ) (JK) (JL) (JM) (JN) (JO) (JP) (JQ) (JR) (JS) (JT) (JU) (JV) (JW) (JX) (JY) (JZ) (KA) (KB) (KC) (KD) (KE) (KF) (KG) (KH) (KI) (KJ) (KL) (KM) (KN) (KO) (KP) (KQ) (KR) (KS) (KT) (KU) (KV) (KW) (KX) (KY) (KZ) (LA) (LB) (LC) (LD) (LE) (LF) (LG) (LH) (LI) (LJ) (LK) (LL) (LM) (LN) (LO) (LP) (LQ) (LR) (LS) (LT) (LU) (LV) (LW) (LX) (LY) (LZ) (MA) (MB) (MC) (MD) (ME) (MF) (MG) (MH) (MI) (MJ) (MK) (ML) (MM) (MN) (MO) (MP) (MQ) (MR) (MS) (MT) (MU) (MV) (MW) (MX) (MY) (MZ) (NA) (NB) (NC) (ND) (NE) (NF) (NG) (NH) (NI) (NJ) (NK) (NL) (NM) (NN) (NO) (NP) (NQ) (NR) (NS) (NT) (NU) (NV) (NW) (NX) (NY) (NZ) (OA) (OB) (OC) (OD) (OE) (OF) (OG) (OH) (OI) (OJ) (OK) (OL) (OM) (ON) (OO) (OP) (OQ) (OR) (OS) (OT) (OU) (OV) (OW) (OX) (OY) (OZ) (PA) (PB) (PC) (PD) (PE) (PF) (PG) (PH) (PI) (PJ) (PK) (PL) (PM) (PN) (PO) (PP) (PQ) (PR) (PS) (PT) (PU) (PV) (PW) (PX) (PY) (PZ) (QA) (QB) (QC) (QD) (QE) (QF) (QG) (QH) (QI) (QJ) (QK) (QL) (QM) (QN) (QO) (QP) (QQ) (QR) (QS) (QT) (QU) (QV) (QW) (QX) (QY) (QZ) (RA) (RB) (RC) (RD) (RE) (RF) (RG) (RH) (RI) (RJ) (RK) (RL) (RM) (RN) (RO) (RP) (RQ) (RR) (RS) (RT) (RU) (RV) (RW) (RX) (RY) (RZ) (SA) (SB) (SC) (SD) (SE) (SF) (SG) (SH) (SI) (SJ) (SK) (SL) (SM) (SN) (SO) (SP) (SQ) (SR) (SS) (ST) (SU) (SV) (SW) (SX) (SY) (SZ) (TA) (TB) (TC) (TD) (TE) (TF) (TG) (TH) (TI) (TJ) (TK) (TL) (TM) (TN) (TO) (TP) (TQ) (TR) (TS) (TT) (TU) (TV) (TW) (TX) (TY) (TZ) (UA) (UB) (UC) (UD) (UE) (UF) (UG) (UH) (UI) (UJ) (UK) (UL) (UM) (UN) (UO) (UP) (UQ) (UR) (US) (UT) (UU) (UV) (UW) (UX) (UY) (UZ) (VA) (VB) (VC) (VD) (VE) (VF) (VG) (VH) (VI) (VJ) (VK) (VL) (VM) (VN) (VO) (VP) (VQ) (VR) (VS) (VT) (VU) (VV) (VW) (VX) (VY) (VZ) (WA) (WB) (WC) (WD) (WE) (WF) (WG) (WH) (WI) (WJ) (WK) (WL) (WM) (WN) (WO) (WP) (WQ) (WR) (WS) (WT) (WU) (WV) (WW) (WX) (WY) (WZ) (XA) (XB) (XC) (XD) (XE) (XF) (XG) (XH) (XI) (XJ) (XK) (XL) (XM) (XN) (XO) (XP) (XQ) (XR) (XS) (XT) (XU) (XV) (XW) (XX) (XY) (XZ) (YA) (YB) (YC) (YD) (YE) (YF) (YG) (YH) (YI) (YJ) (YK) (YL) (YM) (YN) (YO) (YP) (YQ) (YR) (YS) (YT) (YU) (YV) (YW) (YX) (YZ) (ZA) (ZB) (ZC) (ZD) (ZE) (ZF) (ZG) (ZH) (ZI) (ZJ) (ZK) (ZL) (ZM) (ZN) (ZO) (ZP) (ZQ) (ZR) (ZS) (ZT) (ZU) (ZV) (ZW) (ZX) (ZY) (ZZ)

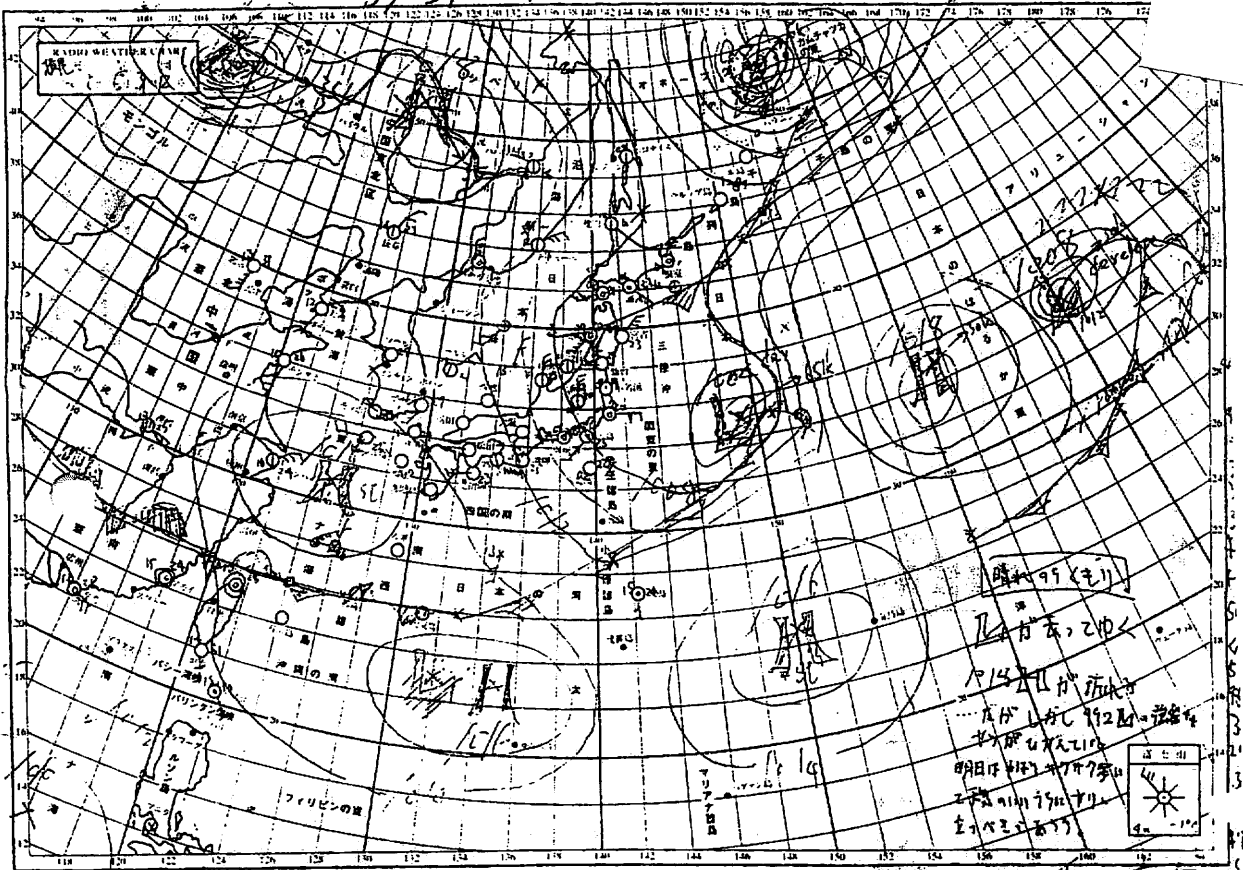
5/29 12:00



Lastav 5/30 12:00



5/31 12:00



5/31 (主)
 7月 20日
 7/15 11時 11時
 7/16 11時 11時
 7/17 11時 11時
 7/18 11時 11時
 7/19 11時 11時
 7/20 11時 11時
 7/21 11時 11時
 7/22 11時 11時
 7/23 11時 11時
 7/24 11時 11時
 7/25 11時 11時
 7/26 11時 11時
 7/27 11時 11時
 7/28 11時 11時
 7/29 11時 11時
 7/30 11時 11時
 7/31 11時 11時

成名 原田 亮二

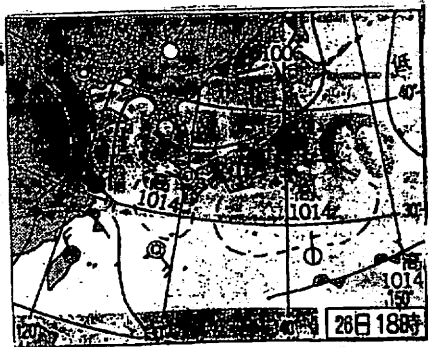
気象・係★反省

気象の反省というよりも自分の反省に存するよう気がするか。
 27~29日の天気図を書くとミに口なかつたので、指示がで
 きなかつた。気象の仕事をしたという気がしなかつた。

I was so young --- but,

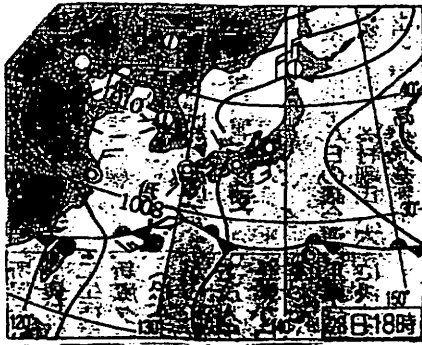


日本の南海上には前線が
 停滞し前線に近い九州が
 5天気は晴れる。しかし本州中
 部はまだ高気圧の圏内で
 前線の影響は小さい。

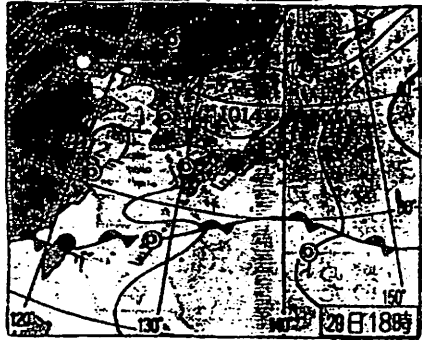
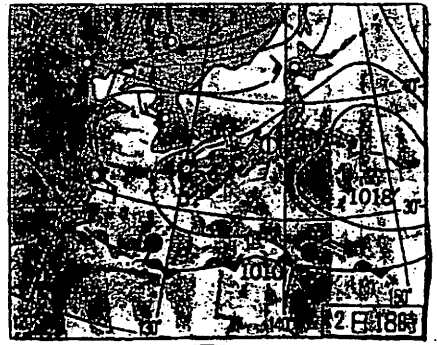


移動性高気圧は東海上
 に離れる勢いを強め2
 3)主眼は本州の近を覆う。
 しかし西からは気圧の谷が
 近づいて来ため天気は西
 がら晴れてくる。

-0-

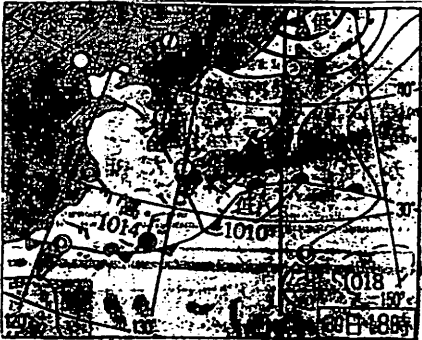


北日本は高気圧の圏内だが、本州の南海上に停滞している梅雨前線は西から次第に北上してくる。このため西日本から天気は解れてくる。



本州の南岸沿いには梅雨前線が停滞し前線上の四国の南に低気圧が進んでくる見込み。

高気圧が日本の東海上に遠ざかるのはじめ本州付近はまたこの高気圧に覆やかに覆われる。代わりに日本海には寒冷前線が進んでくる。



低気圧は関東の東海上へ進み中心を通る梅雨前線は南海上へ下がり現れる。一方本州付近の西から高気圧が覆われるが上空はやや冷たい空気が入る。



物動性高気圧が日本海と北海道付近に中心を移して広く日本付近を覆い全国的に晴れる所が多い。ただ関東の南は弱い気圧の谷と存するためこの方面は曇りが多い。



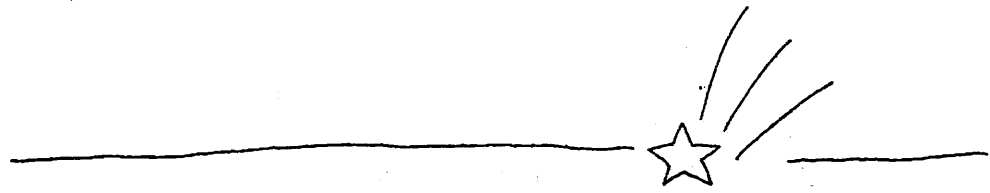
日本の東海上に中心を移した物動性の高気圧が西に張り出し広く本州付近を覆う。



雨鬼退散の図

- 医療・反省 - 花谷

今回は4人、病人が絶えず残念であった。山に病病を持ちこたない。山で病病がつかないのが一番良い事だ。おとし、かりと自己管理に努めた。自己管理を能くうらだという点を、かりと理解してもらった。一人がカゼを持ち込み、下でほぼ全員がカゼに付き、今月2はく公から下と思ふほどに。つかの同じ。隊全体に迷惑をかけるので注意してもらい。今日、医療中身の急ぎ明かりは、たのび隊が責任をもって改善して欲しいと思う。



新人合宿
装備の反省 原田 亮介

GW合宿に引き続き装備を担当した。前回の反省に立って、いくつかの改善がみられたが、やはりいくつかの反省点が残った。

- ・MSRのタンクが足りなくて急ぎ小ガスを持っていくことにした。
→ 事前のチェックの時個数しか調べておらず、タンクのハードが一つ減っているのに気づけなかった
- ・合宿中の装備の徹底した管理ができなかった
→ 一年に対する注意が足りなかった。
- ・シート袋が足りず一部ゴミ袋に入れていた
→ やはり不便。購入しておくべきだった。

(消費量)

- ・X9 32本 ※ ガスアプレは7本たりずし、危険なもので
- ・白ガス 7L ※ 燃やした。
- ・電池 24本
- ・ローソク 8本中3本途中まで 5本はキリカサ

essen の反省と感想

反省： essen 隊長に任命されながら、途中五日間も抜けてしまい、戦前での陣頭指揮に立てなかったのが最大の反省点であった。以下細かい反省を述べる。

- 1) 朝食、ラーメン類は定番だが、マカポテは不評だった。ドモ通らないというのが理由。マカポテは軽量が魅力であるから、今後も使われるだろう。マカポテを出す時は、スープ食器と渡し、お茶と同時に食べると良いだろう。量が少ないという声もあった。
- 2) 昼メシ、おやつ、 昼メシのあげせんはドモ乾く。おやつは砂糖を多めにするよと喜ぶ様子。
- 3) ツメシ、カレー、ハヤシライス は、絶対的にルーが少なかった。人数分×2 と理想のルーの量としたい。キムチ鍋は辛かった。キムチの調節には細心の注意を払いたい。6/1 の天ぷらは、持参した油が古く、炒めものに使ったラードが多すぎ、合宿最後の夜 傷ついている胃腸には殺人的なメニューとなってしまった。油には慎重になろう。
- 4) 肉を川の中で冷やしてみくのはいいが、カラスに食べられてしまうのはいただけない。今回も少し食べられたから、来年は essen が何か対策を考えよう。
- 5) レーション、 テキトーに傷てしまったためムラがあった。次回は何個作ればいいのか考えて、計算して買おう。

感想： 新人合宿の essen はやり甲斐がある。今回の essen のテーマは、「大胆に慎重に」であった。大胆ではあったが、慎重ではなかったようだ。オナカをこわしたみなさんすみませんでした。

essen 隊長 小林 茂幹



個人の反省と感想

反省

山内 哲文

山では様々な危険が待ちかまえているが、カゼ、食あたり、やけど等もその一つである。自分の体は自分で守るようにしよう。気を抜くとカゼなど病気になる。またもっていく食料の賞味期限は必ずチェックするようにしよう。Essen中も火の扱いには十分注意し、MSRの古くなった部品はとりかえるようにしよう。

体力は全員とこよこである。これからトレッキングは欠かせないようにしよう。大切なのはスピードではなく、バテないことだ。バテないペース、歩き方を身につけて、より長い時間、長い距離も平気で歩けるようにしよう。これからたくさん山へいこう。

なだれについて

今年は何年にもなく残雪が多く、涸沢でもひばりになだれがおきていた。雪質、時間から判断すると、日射によって積雪の表面が融かされて発生する湿雪の点発生表層なだれだったと思われる。ゴツゴツのなだれの規模は小さかったが、合流する所や、狭い沢筋等では危険性が高まる。特にこの時期の雪は湿っていて密度が高く衝撃力も大きい。また、もしあの雪の上にさらに雪がふって、新雪がつかると、表面のとけていた部分は、弱層となり、大規模な面発生表層なだれがおきるだろう。

この時期は、全層なだれの危険性がある。雪のクラックやしわのある所には近づかないようにしていたが、クラックが雪にうまって見えなくなっている所もあり、来年から雪割りの場所、登るルートには注意が必要だ。

感想

山内 哲文

全員で楯にいけたのがよかった。新人と山へいくといつも新鮮な気持ちで登れる。「忘れ物をとどけにきました。」とかんじた。このキャンプな感小生を大切にしよう。そして合宿のさいごの夜、たきびのよこにねころんで、星空をみつけながら、オカリナの音色に耳を傾け、何者かになくられたほろもをなでながら、静かに一週間を思いだし、眠ってしまいそうになりながら、俺は「ああ生きてほとによかったな」と心の底から思い、少しロマンチックでセンチメンタルでキャンプな気分になった。

合宿における反省点や問題点については、合宿中・下山後の反省会・6月総会時において言ってきた通りなので、心あたりのある者は、今後同じ反省を繰り返さぬようにしてほしい。

私自身は4度目の新人合宿なので反省すべき点がないのが当然なのだろうが、ただ単に自分で気づいていただけかもしれない。強いて言うとうと今回の合宿も2日間学校の練習に出るために抜けさせてもらった。その間他の部員に負担がかり問題し分けないと思、ている。その他にも途中抜けた者があったが、その分他の所ぞ(個人山行やサマ天などで)がらばるう。今後も同様な選択にせまられることとなるだろうが、やはり合宿は全員でやることに意味があると思う。したが、今後合宿に参加できないという事は、残された者に2倍の負担がかり、全買させる合宿のよさが減、てしまうことを承知の上で抜けしてほしい。

私は合宿や目標の山行が無事終了満足してしま、てい、るし感じた時は、いつも年前の槍での滑落の事故報告書を読むことにしている。そうすることにより、初心に戻り、うぬぼれることのないように自戒している。

合宿とは関係ないが、2,3ヶ月前から岳人で早稲田の剣岳と明治の利尻での遭難について検証が連載されているが、遭難についてはとまかく、このように同じ大学生が、冬に向けて大きな目標をかかげ、実行しているふつのと、りくみ方はここ何年か倍大い否会ではな、たよ、うに思われる。とまなかつた理由はいろいろある、たのかもしれないが、その水を乗り越えて今年度は今か、り具体的な目標をかかげ、とりくんでいきたいと思、ている。

大乱おる
Y内氏



新人合宿 感想と反省 長澤 徹哉

今回は全編を通じどのくらいしたというか、余裕の多い合宿であったように思う。その分楽しかったか、間のひいた感も残った。荷が軽くなる分もと隊全体をみていかなければなら、ない。生活面での注意をもっと喚起がきだ、らたらう。ただ、雪崩の実際を見ることかできたり、奥又白池(!)への本隊では雪と岩稜での雪庇のこたも知ることかできたいん、ためにな、る山行だった。

新人合宿 反省と感想

反省

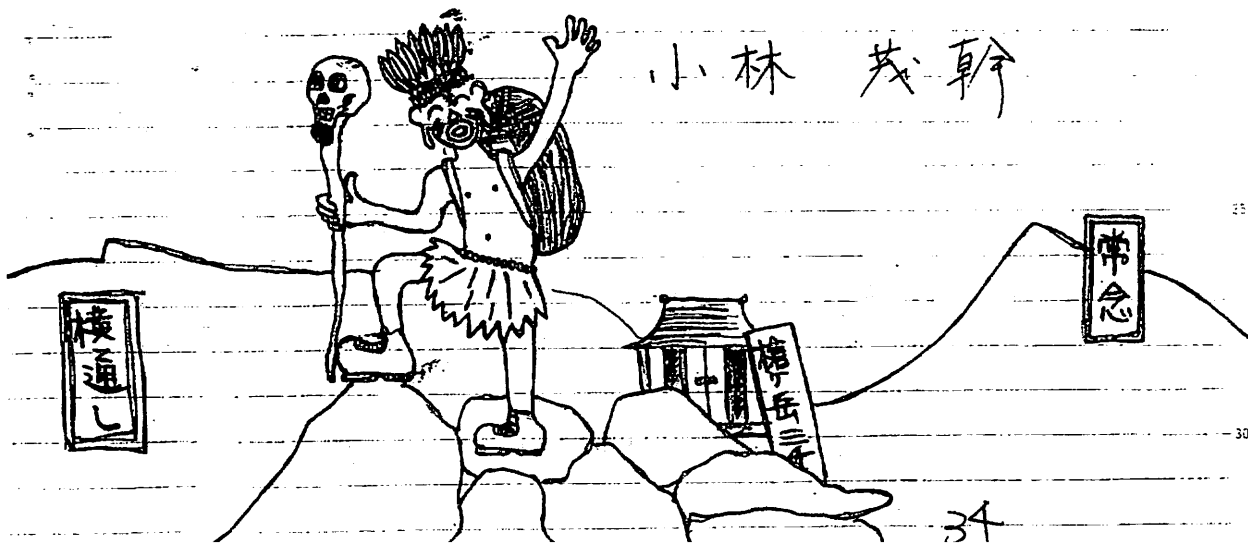
今年山岳会2年目である。2年生でありながら、この合宿に参加したのは3日間だけであった。この意味を考えると、これからの山行を計画したい。「山の“カリ”は山でかえす。」これが山岳会だと考える。参加した3日間、“これは失敗だった。”といえることも多くしていった。“楽しく”合宿をやろうという気持ちで、合宿の主目的である“基本的技術の修得”をあまりおろそかにしてしまっているのである。下山後、高地温泉ホテルのロビーで、徳沢園の上條さんがおっしゃっていた“メリ・ハリ”に気づけていた合宿だった。これからの山行は“メリ・ハリ”を常に意識してやりたい。

感想

参加した間の基調の気持ちは、“申し訳なさ”だった。会員のみんなには大きな迷惑もかけてしまった。そのカリはこれから山で返すとして、一日目の徳本峠、土砂崩れによる立入禁止のゲートと、“立入可能”を確認して取り払ったのは僕の趣味にあっていた。登りついた峠では、雲にうそぶく穂高がキレイだった。槍も相変わらず良かった。信州に来てよかったと実感した合宿だった。

♪ imagine all the people ♪

小林 茂幹



・体力について

合宿が終わる度に「体力をもっとつけなければ」「トレーニングをしなければ」と言ってきたが、これは毎回この目標が全く達成できていなかったからではない。実際、去年の新人合宿から合宿を重ねていく度に少しずつではあるが power up していき自分を感じていた。

なぜ自分が毎回同じことを言ってくるか、それは確かに体力が足りてないからだとこのことをも告げることがそれ以上自分には向上心を持っていないからだ。体力は、体調(精神的な物も含む)、環境(天気、気温など)などの要因により左右される。したがって、体力というものはこれと十分というラインは存在しないように思う。

トレーニングもすること、それが大切だと思ふ。

・反省としては、自信を持つこと、知識をつけることだ。とりあえず1年間これを目標としてがんばってみようと思ふ。

新人合宿 感想, 反省

花谷 泰玄

— 感想 —

とにかく疲山下とか楽しかった。1年が長いから、たのしみはあつた。全日程に参加できてたのが結局 2人 (かいはたか、たか) くらい残念だ。各々に全力を出し切ったのではなかつた。初め後輩を連れての山行だったので不安があったが、やはり体力的より精神的に疲れた。fix通過の時などは本当に緊張するものがあった。何れも今回の山行は天気が一番、たか一番... 事だ、たかではなかつた。昨午行けたのが奥又白沢や槍ヶ岳を登ったのが良い天気でも持たせてくれた。天気が一番!! 1年生には頑張って4年間残るのがいいなとぼんやり思った。

— 反省 —

G.W 合宿。時に感じた体力低下。今回はそれがモロに出て行った。しかし洞沢走りは1年が速くなったと思う。歩荷を1kg 限り走ったりはそれまでと大分違う。ツルヤ、たか、ていかに差がつくまで走れた。2年生が何年かやるといふように負ける時は負けるなと感... ぞろぞろにもたつた。2年生を演じました。ここの遠征には行くのを思はなかった。初心に戻ってトレーニングをしようと思ふ。1年生も7ヶ所(12登座という事はかな) を使った。いっつも落ちる自分の心からいっつも精神的には落ちる。しかし今回調子でいっつも下級生らしく強さを出せるようにしたい。

新人合宿の反省・感想 原田 亮介

今回は準備段階での反省でも出ていた、合宿前の体調管理・忘れ物・前夜の睡眠という点で非常にうまかった。しかし合宿に入った後で風邪をひいてしまったり胃をこらしたりと今一つ元気がたがった。体カももう少し足りないのであろう。また来年と名の資格がないのだからとい聞かせて夏までの期間、全体の向上につとめたと思ふ。

とにかく体調を崩しながらも全行程を一年生とともに歩けたのがうれしかった。真剣に雪訓に取り組む姿や遅れながらも歩き続ける姿を見、去年の自分を思い出し、新鮮な気持ちをもつことができた。やはり何事も初心に返ることは大切なことを教えられる思いがした。一年の始めにもカンガシムハッとしてゆかねば。

松藤 康公

新人合宿の反省と感想

まずすべてのことについて手ぎわが悪かった。特にエッセエでの手ぎわが悪かったと思う。上級生から1回指示されればすむようにテキパキと行動すればよかったと思う。また涸沢岳から下山中にシリセードをしたが、そのとき調子に乗りすぎてスピードを出しすぎた。それでバランスを崩し、転倒し、ピッケルが背中に刺さってしまった。これは山を甘くみてもいけないという自分にとってよい教訓となった。

全体的にきつかったが、1歩成長できた。

96' 新人合宿

準備 5.25 期間 5.26 ~ 6.2

1年 川井 純

今回の新人合宿では全日程を通して天候に恵まれ、大きなけがや病気もなく自分としては充実した山行かできたんじゃないかと思えます。また、自分の考への甘さなどもよく分かり、いい勉強になりました。

この合宿の前に、僕達1年生には3回の装備チェックがあり、3回目の装備チェックのときまでに全部完璧に用意して、あとは結めるだけの状態にしておいてと言われていました。ところが自分の中で『行く直前までに用意できればいい』という考えがあり、結局出発前日の夜9時まで準備に時間をとられるという状態になってしまいました。その影響が出たのでしょうか、合宿中に個装を落としたり、なくしたりすることがよくありました。

また、ESSENの時など何度も同じ事を注意されてしまいました。次回の山行では、もっと意識して行動し、より確実に、そして早く何でもすることができるようにならねばと思えます。

自分をほめてあげたい点はやはりかさをひかなかったこと。合宿中はとにかくよく食べ、よく寝て、しっかりと体操をすることを心がけました。その結果として全日程をこなすことができたんじゃないかと思えます。やはり疲れてくると、どうしても食欲がなくなってしまうか、そんな時こそ、しっかりと食事が大切なんじゃないでしょうか。

『食いしごき』になるまで食べる必要はありませんが、多少無理してでも食べとけば、その分絶対に力になるし、そう簡単に体調も崩れたりしません。(僕の経験からすると) 山の中ではよく食べて、そしてうそでもいいから元気にふるまう。これが体調を維持する秘けつだと思えます。

あとよかった点は、今まで遠くからしか見たことのない大倉に登れたこと。今回は晴れていたし、人もいなくてもうサイコーでした。今度は秋あたりに来てみたいですね。

書くスペースがなくなってきたことだし、とりあえぬこの辺で全員無事、新人合宿から帰ってきた今年の信大山岳会の1年(僕も含めて)にかんはいい!



今回の新人合宿に参加して、まず第一に感じたことが自分の精神力の無さだった。私と一緒に登った人は感じたかもしれないが、限界まで力を出しきれないのである。限界が自分にもわからないし、どうすればそこまで出せるのかということはなおさらである。まだどのどこかで、甘えていたのかもしれない。これからのまず1の課題となりそうである。

その次に体力の無さである。これは精神的なものが大部分を占めるのかもしれないが、今まで一年半近く運動という運動をしていなかったから無い、といえは無いはずだが、改めて自分がどこまで体力が無いかを知った。これからが大切だと感じた。

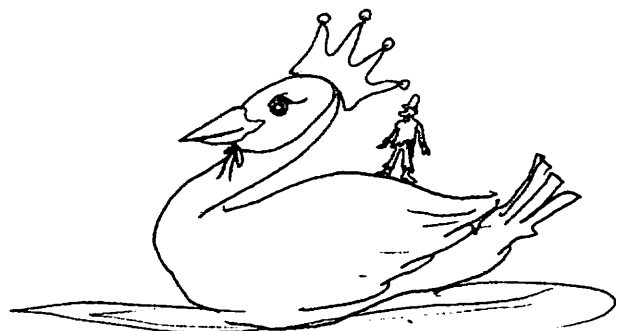
新人合宿に参加することで、今まで知らなかったいろいろなことを吸収することができたが、その中でも特にみんなのことを知る、という機会になったと思う。みんなとはあまり話をしたことがなかったの、よくわからなかった。でも、同じテントで寝て同じエッセイ係になって、同じ山に登って、みんなもそうだったように私もみんなにいろいろな色を感じることでできた。今回は数人の方がいつも居ない状態だったので、一部の人はまだ知らない部分が多くてさがあるが...。きっと、ここからの山行でもっともっと色が深まっていくんだと思うが、いろいろな個性があって、私はどんな風にみんなに映っているんだろうか。きっと理解できない部分もあるだろうけど、私のことを知ってほしい。やっぱり、他人を知ることでその人に対して思いやりの気持ちか持てるだろうし、そのことは山をやっていく上で重要な事項ではないだろうが、私もまだまだ子供だから、自分の感情が先にたってしまうときもある。もっともっと、大人になりたい。

これからの課題は山積み状態だけど、少しずつ改善させて自分で満足できる山行ができるようになりたい。新人合宿はなかなかいいものだったけれど、次の山行が楽しみになったし、山が本当に好きになれた。

出会い別れ 土にうまれ
日が沈む様に 死んでいく
わからない時を むさぼり合おう
夢を見続けるこの世で

山にいる間は曲がず...と
頭の中でながかいていた。

by Biz "LOOSE" Beat#4. 夢見の丘



感想： とにかく辛かった。1日目は移動距離が長かったが、それほど疲れなかった。しかし2日目は、移動距離が短ったにもかかわらず、1日目の疲れがとれていなかったのが、次の一歩を出すこともできないくらいバテてしまった。3日目以降は、毎日、涸沢走りがあり、死にそうであった。雪訓は、思っていたほど、辛くなく、合宿の中では、楽しめた部類に入ると思う。5日目の涸沢岳に登る前は、少しカゼぎみのようで、体の節々がいたえ。涸沢走りは、正直、全力を出す気力がなかった。その後、涸沢岳に登った。雪の斜面を登っているときは、オレは今、登山をしているな〜というおな感動があり、カゼの疲れもどこかに飛ばしてほめた。頂上から見た景色は最高で、特に遠方に槍ヶ岳の頭が見えていることに感激した。オレにとっては、大変辛い合宿であったが、街に降りてほうと、また山に行きたくなくなった。オレも山にはまって来かもしれない。

反省： 今回の合宿で痛烈に感じたことは、自分の体力のなさである。オレ1人のために隊の行動をおくらせることが大変辛かった。こんな体力では、個人山行に行っても、みんなの足手まひになるだけである。これからのオレにとっての一番の課題は、とにかく体力をつけることである。そして、山の知識を増やすことである。

麦谷 水野

—反省—

私かこの新人合宿で最も反省すべき点には、これは、田んぼに落ちたことに限る。これが風評ウイルスをおこし、山岳会に伝わり、すべての責任はこの田んぼに落ちた私である。私は反省している。その反省の深さは海よりも深かった。だからみなさん私を許してください。

—感想—

槍は過去に2度行っているが、すべてガスガスだった。この新人合宿、3度目の正直で踏水で本当に元気が回復した。

〈反省〉 反省する点は第一に、自分の事にかまけていて、集合や出発を遅らせたことがあつた点です。用意などは前夜のうちに終わらせて、朝はすぐ出発するようにするべきでした。第二に、体調管理が至らなかつた点です。第三に、B.Cにて、暇な時、なにも手伝おうとしなかつた点です。特にエッセンの人は大変なので、手伝いが必要だと思いました。

〈感想〉 全般的に好天で、景色が素晴らしかったです。初日の、今まで背負つたことのないくらいの荷物をかゝつての徳本山峠越えは、かなり散しかったです。洞沢での雪割では、正直言って帰りたふと思つた事がありましたか、今思えば充実してつたと思います。ただ、1日、熱を出して奥又白に行けなかつたのが残念です。そんな中の、洞沢岳、槍ヶ岳登頂は、言葉にさせない喜びがありました。そして下山の尻セドも気持ちのよいものでした。また絶対登るぞ、という気持ちになりました。



前準備について、一通りの用具の準備はできていたが、前日は、あわただしくしており、前日の記入、できず、また緑軍手を一式忘れてしまった。槍穂高、自分の下調でできなかった。初の合宿にしては、余裕を持ってできた。

エッセンについて、1日のエッセン中、やけどをおったのが、火にあてているときも、そうでないときも、なべ持ちは慎重にするべきである。あとMSRは合宿前につけておかなかったから、ずっととまどっていた。かす入れの有無は、朝食準備のときに必ずチェックしておく。ゴミ袋は常に用意しておく。

天気図について、時間は長かからず、摩崖線のひまわり、強引だ。予報とあてるのはいいけど、書くスピードをあげて、天気図、読む練習をすべきではない。観天望気の勉強もしたい。

行程について、1日は、荷の重さと速さ、体にこたえた。何度も立ち止まったり、歩調を変えたりして、後ろの人を歩きにくくしてしまった。体力はなかった。それでも雪上を歩くときは、そのテンポと吹きぬけていく風が、気持ちよくてよかった。この日は、ザックの腰ベルトが、体にあわないため、腰痛で苦しんだ。それから、やけども、た時は、どんなものでも、できるだけ長時間、早めに水で冷やす。

27、28日と上高地診療所に通った。29日の涸沢までは、走れなかったけど、自分の精一杯だったろう。近くに見る北穂と涸沢岳が、印象深い。すぐそこに見えるのに、実距離は長く、困難なことだった。うたかわれる。雪訓の中では、トラブルのけり込みが、うまくできなかった。実際、便が丸くたつたろうか。また帰りのくだりは、登りエリ遅れる。結局、荷がなくても足がつかう。30日は、診療所に行ったが、軽シューズで靴がぬれ、復路の終わりは、苦痛だった。この辺で、テレシグは、もはや必需品であった。

31日の奥又百行きは、慎重かつ快調だった。ここで、登って頂から、数時間も前にいた下界を見下ろすときは、こころよい。近くにせまいた前穂、も足とのおしい気持ちになる。その日の参加メンバーが、少なかったけど、まじりがあってよかった。くだりは、気が抜けない。2日には、新村橋の横で、のどの乾きが我慢できなくて、その水を飲んでから、気持ち悪くなってしまった。飲水については、今後、気を付けた。上高地で入浴する前に見たら、右足親指が、テレシグの下で、水ほうでふくねあかっている。驚いた。歩行中痛みがなかったが、さむいだった。

合宿を終りかかると、ほぼ1日おまで、他部員とは別に、上高地の右1トックのよう、平松
な形で通ったことで、変に穴あき状態の合宿であった。今回、先輩の指導で、やけどのけり
をわけても、とどまることかできた。本当によかったです。少々無理でも、皆と最
終日まで、山にいたいという気持ちでした。1日目は、どうなるかと不安な気持ちかあ
りましたが、1週間の日数は、たんとと過ぎました。治療中のきずも、治まり
方は、早く次の山に入りたい気持ちで、いっぱいです。

作文 - Composition -

山で想ふこと

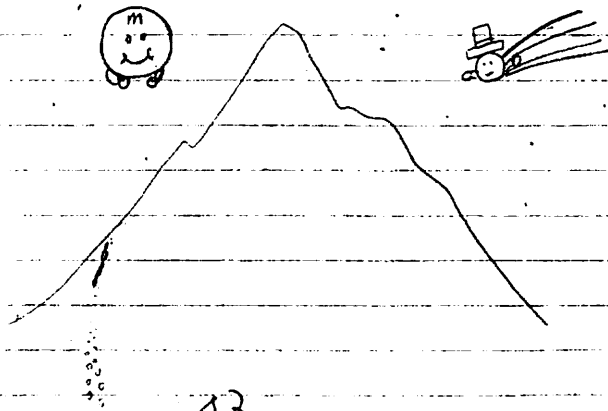
1年 川井 純

— 昼 —

合宿7日目、槍ヶ岳山頂に立つ。風は強く、少しかす、ているが遠くまで見通しがきく。見わたすかきりの山、山、山…。僕達以外に人はだれもいない。この静かで、広く、大きな風景。僕は大好きだ。

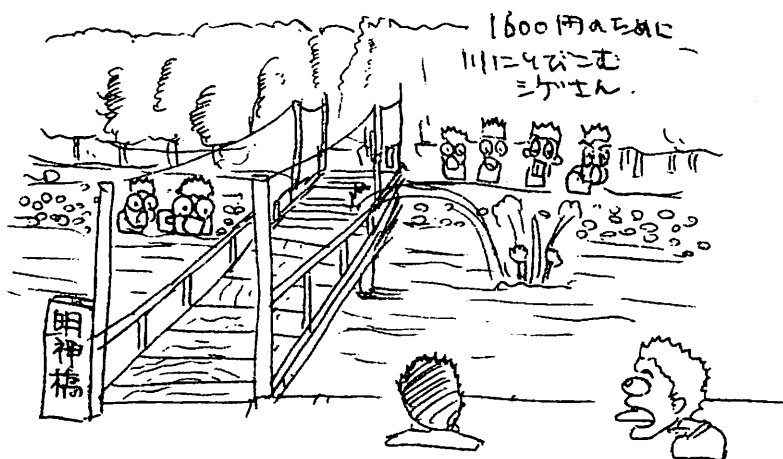
— 夜 —

満月に近い月が、青い光で辺りをやさしく照らし出す。昼とは違った山の姿がそこにある。僕の前には焚火の炎がゆらゆらと燃えている。聞こえるのは、バチバチという焚火の音と、川のせせぎすだけである。「こんな場所に自分はいるんだ。」とはっきりと意識するとき、僕は心の中で静かにつぶやく…。「幸せだ。」



ひえんなぎかけから高校の山岳部に入学した'92年4月から、早4年が経った。
最初は部活なんてやる気もなかったし、山なんてまったく知らなかった。
だから、私の予定に大学で山をやるなんてものは、その当時は無かった。
ところが、高校3年間のうちで私の予定は大幅に変更で、大学で山がやり
たいと思わうようになっていた。しかし、1年間の浪人生活の方が先に待っていた。
1年間は1回も山に行かなかった。低山でもいかなかった。それは、1年間で
浪人生活を終えるために、自分で決めたことだった。だから、現役で
大学に入学した友達の話の山の話は、とてもつらかったし、羨しいと思った。
やっと今年になって大学に入学するこができた時、山がやれることが本当に嬉しかった。
これから先どんな山をやるかはわからないけれど、思いきり山をやりたい。
九州に住んでいてはできないことが、長野ではできると思う。山で死んで
いった人々のことを考えると、山がでできる自分は幸せだと思ふ。自然は人間に
厳しいけれど、やはり私達は山を愛して止まない。

∴ いつの日か、私は北海道のペテカリ山に登りたい。





Mountaineering

is

Art

M. Tanska

中島辰哉

山を好きな人は

山に登る

けれども 自然破壊の原因の1つは 登山である
山を愛する人が 知らずに 自然を汚している

けれども 山に登らずにはいられない
山に行きたくて仕方がない

おいしい空気を吸うために 素晴らしい景色を眺めるために
頭の中をカラッポにするために 街の喧噪から逃れるために

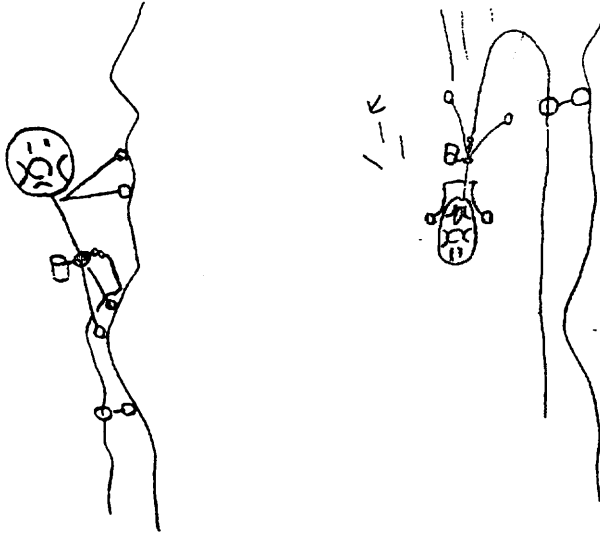
山にしてみれば 迷惑な話だ
けれども、山は何も言わない 寛容である
いや、言っているか、我々が聞こうとしないのかもしれない
怒れば人は近よれない
機嫌の良い時だってある 表情は豊かだ

そんな山に甘えて

山を好きな人は

山に登る





野田聡

おしまい

平松

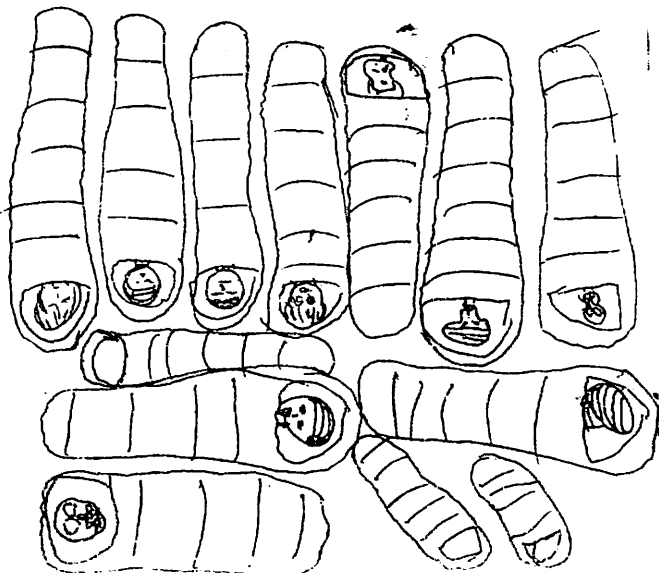
高校の山岳部で行った93年の夏山は天候にめぐまれて、つまりずっと快晴と
 言うほど晴れていて、コンディションはハズリ。合宿の日を重ねるごとに、目に見える
 槍ヶ岳は、だんだんと大きくなっていった。展望が良いおかげであって、行程の消化
 の目やす的存在になっていた。それが鏡平から新穂高の方へ降る際、真横にせ
 まって来たときは、あんな鋭い死に人が去ってるのかと思っておたり、とにかく槍にいっ
 かは立って見るもんだと誓った。それから大学生の先輩や友から話を聞き、
 想いはつのりだした。そこで新人合宿しおはなから行程に入っていて、うれしく思った。
 当日、朝から天気は上々。先輩のおおしに負けず、ペースを後にして進む。槍沢ロッジ
 赤沢岩小屋(?)も通過。横尾尾根を左に足を前へ前へ。途中、小体上から皆
 と別れての登りは、自分の中でリズムをとりながらの戦になる。「あれだ。」と言われた
 から、自分はやみくもなので、ずっとお目にかかれぬ槍。笑はすぐ目前で、殺生ノッテ
 近くにつくまで先輩から確認をとってしばしばう然。そこから「降って下せい」と
 言われはかりに槍ヶ岳山荘まで、まずスパート。それから思った以上の岩壁。フィックス
 の命つなはしくりになくて、またいて、先の先輩をいっぱい降らせてしまう。頂か目の前
 に広がる瞬間、頭の中は無の状態。言葉通り360°の大パノラマでした。周りの
 山々は、文字通り人気がない程で、離れ小島の快感だった。そこで天を仰ぐと
 やはり神の領域という感じが浮かんた。昼寝をしていた人達は、せむたく者。
 そいで下山。また次には、尾根のルートから違う様の槍ヶ岳に行きたい。

新人合宿を終えて

とにかくきつかった。まず初日の徳本峠
越えはザックがものすごく重くて肩に痛い
こみ、さらに急な斜面で「僕はもう続け
いけない」と思うほどきつかった。しかし峠
に出て北アルプスの山々がパッと目の
前にあるおれたとき、かんはって「よかった
」と思えるようになった。

また涸沢まで登るのもやっぱりきつ
かった。しかし途中で休まずとにかく息が
上がったまま歩き続けた自分に自信が
もてた。

5日目ようやく涸沢岳へ目指すこと
となった。登る途中はやっぱりきつい。か
だんたんとして頂上に近づくとつれてうれし
くなってきた。そして山頂に立つとすばらしい
景色を見たときなぜ危険をおかして
まで山に登るのが少し分かったような気
がした。そしてきつければ山岳会で
頑張りていこうと思った。



アケハクウ

マタクキ⁰⁰

No. _____
Date _____

連載第一回

～プロローグ～

山口達文はもう五時間近く歩き続けてきた。初夏の風下がり、峠へと向かう峠道を歩いてた。立ち止まり見上げるとすいすい空を飛ぶような空である。大学を出て兵庫県、K高校で教壇に立った三年間を思い出して行になって、その思考を無理に頭の外に追いやった。——俺は何をしきたのだから——今までに何百、何千回と自分に問いかけてきた疑問が自分の選路をふさぎ去った。——今は歩かしかたなんだ——

この春教職を辞め、通い立てられるように旗に出た。各地の友人の家をわたり歩き、そして大学時代の思い出深いこの信州にまた戻ってきた。——何故ここにきてしまったのだから。何かを思い出したかたの？ 何かここに置いてきたものがあるのだからか？——突然職を捨て、そのことを電話で父に話した時の父の言葉がよみがえる『いつまでも子供ではいられない。責任というものを考えなさい』この道は、まだ父の背を二えたい時があった頃、父と二人で登った道でもある。

『峠が見えてくるころだな』そう思った瞬間、立ち止まって来た道を引返したくなった。——違うのだ。そう違うのだ。今の自分は。頼りがいのあつた父の背を夢中で追っていたあの頃とも。心の通じ合った仲間達と重い荷を背負って歩いたあの頃とも根本的に違っていて。今の自分はあの峠に立つ資格はないのかもしれない。——

立ち止まりふり返って、あてもなく谷とその向こうの空とに視線をおぼがせていると、背後に峠を下って来る人の気配を感じた。(7/26)

(担当者:リョウジ , 次回担当者:小林茂幹)



信州大学山岳会

1996 G.W.合宿 & 新人合宿 報告書

編集：小林 & 中島

発行：松本で

印刷：(有) アース

表紙：中島

¥100